

荒

鷺

第三十四号荒鷺  
福岡大学学術文化部会書道部

## 巻頭詩

見上げる空は遠いけど

抱えきれない夢がある

そうよ、創られた世界の中を

抜けだして 自由になりたい

走り続けて 空に届けたい

風になれると そう信じてるから

I never give up forever

「いつか空に届いて」

椎名 恵より

### 〔第三十三代基本方針案〕

我々書道部は練習・行事及び一般諸活動を活気あふれる有意義な活動とする為にこれまで培われてきた伝統を見つめ直し、全ての活動に意欲的・積極的に取り組むことで部員一人一人が互いに切磋琢磨し合い団結をより深めその中で部員相互の親睦融和を図り、書技を向上させると共に人間形成を目指す。又、対外的にもアピールを行い活動に幅を持たせることで部をより飛躍させ活気のあるものとする。

第三十三代役員一同



福岡大学書道部講師

赤木 石掃



福岡大学書道部部长

小西 高弘



福岡大学書道部第33代幹事

白井 和宏



福岡大学書道部書心会会長

柴田 一夫

《第三十四号「荒鷲」発刊にあたって》

この度、我が部の機関誌「荒鷲」が発刊できますことは我々部員一同にとって大きな喜びとすることでありま  
す。

書道部は、昭和三十五年創設以来、目覚ましい発展を遂げ現在に至っています。我々はこの良き伝統を受け継  
ぐと共にそれを後輩に伝え現代に即した発展を図ることが使命であります。

最後になりましたが、発行に際し、多大なる御尽力を頂きました関係者各位に厚く御礼申し上げまして発刊の  
言葉と致します。

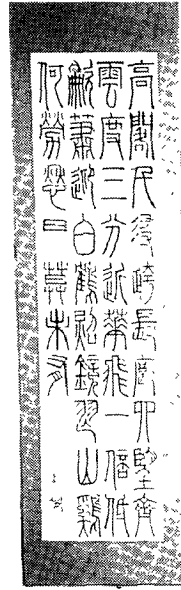


卷頭詩	1
基本方針	2
紹介	3
荒鷺登刊にあたって	4
目次	5
七隈祭展示会作品	6
特別寄稿	19
晩婚は減る	20
冷夏に思う	20
『嫁』	20
私の現役時代	21
七隈の風	21
「創造」	22
年間行事及びその他	23
クリスマス・パーティー	24
追い出しコンバ	24
春季合宿	25
新入生勧誘週間	25
新入生歓迎会	25
春季学生部長杯争奪球技大会	26
学内展	26
能古島	27
夏季合宿	27
七隈祭	28
西日本高等学校揮毫大会	28
講師 赤木 石掃	20
書道部部长 小西 高弘	20
書心会会長 柴田 一夫	20
昭和四十六年度卒 安河内 純一	21
昭和五十一年度卒 荒尾 記史朗	21
常任幹事会 幹事長 末岡 昌文	22
三年 吉田 啓子	24
四年 佐々木 智子	24
三年 中江 寛行	25
二年 山本 浩司	25
一年 光石 恵子	25
二年 池田 留理子	26
一年 森田 国昭	26
一年 住吉 弘子	27
二年 立石 泰寛	27
一年 大久保 隆史	28
三年 工藤 大行	28

部員投稿	29
自由投稿	30
テーマ投稿『時代』	42
『夢』	42
『一週間』	42
◎『夢』	45
◎『一週間』	49
一年間を振り返って	50
福岡大学学術文化部会書道部規約	51
福岡大学書心会規約	53
部員名簿	59
書心会名簿	63
平成五年度役員名簿	80
編集後記	81

# 〈七隈祭・展示会作品〉

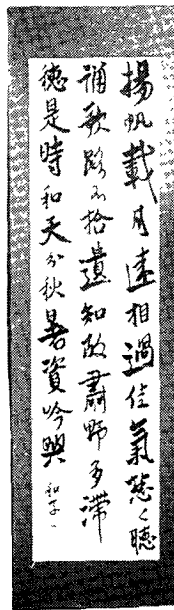
経済学部 一年 宮原 正樹



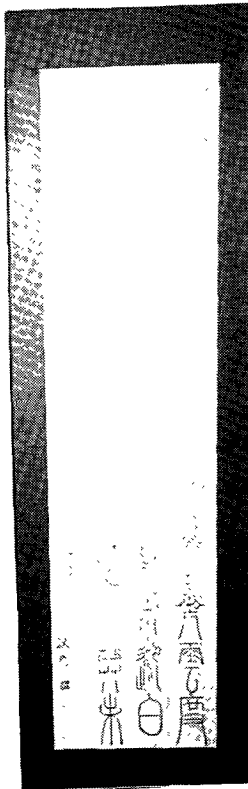
人文学部 一年 江上 由香里



経済学部 一年 武辺 和子



法学部 一年 鶴田 政彦



理学部 一年 小川 貴史

若乃既節屈  
以幹事隨行  
六以經綜圖  
覽經足周流  
送貞固

人文学部 一年 高村 裕子

卯月... 高村 裕子

経済学部 一年 川原 和人

川原和人 敬啟

経済学部 一年 森田 国昭

森田国昭 敬啟



経済学部 一年 今西 衛

聖徳太子の御宇に於ては  
 皇極經世の道に由りて  
 政治の隆平を期せり  
 此の御宇に於ては  
 皇極經世の道に由りて  
 政治の隆平を期せり  
 此の御宇に於ては  
 皇極經世の道に由りて  
 政治の隆平を期せり

経済学部 一年 光石 恵子

郭幽拜  
 家奠酒  
 等殘宗  
 規符禱  
 進楊福  
 燒向長  
 城時詠  
 寺並販  
 動張  
 而角  
 縣起  
 民兵

法学部 一年 住吉 弘子

始予有濟于衡漳軍涉而夜號燧松  
 明以記淺敷墨宿於亭半懸風中之香  
 霜差悔予之不遠室千歲之妙弘子

人文学部 一年 久保 美奈子

聖徳太子の御宇に於ては  
 皇極經世の道に由りて  
 政治の隆平を期せり  
 此の御宇に於ては  
 皇極經世の道に由りて  
 政治の隆平を期せり  
 此の御宇に於ては  
 皇極經世の道に由りて  
 政治の隆平を期せり

経済学部 一年 竹下 裕子

依傍蘭見年川卷蘭筆插屋椽我米多意  
 通張老社格數百年百教余春天鳳鳴嬌喜  
 錦洗年公須善薩泉喜喜喜甚好賢 吟子

人文学部 一年 内田 理恵

惟那奏飛龍郭歌奇周青惟那坊  
 仗樂狂龍爭天洪失歡惟那李安  
 胡郭安與郭伯祖惟那郭

商学部 一年 大久保 隆史

此川流... 合亦... 神... 隆史

理学部 二年 植本 豊

答和空工業... 植本 豊

法学部 二年 立石 泰寛

德儀惟能會之類 捕魚為錢取名身書為文更  
 換心 湯飲為茶不 殆甚為來袖袖後身後  
 花兒其有下世寺其長無主還元法儀新舊也 寺人

人文学部 二年 池田 留理子

春霞暎而夕俱 暎糶以二米之本籍  
 以三者之管忽雪而冰解 旌殊零而  
 活潑半句 叙皆學翁春繪 留理子

人文学部 二年 牧本 朋子

書時二鶴子 戲於前 嘖嘖 仰乳遊落數如福  
 形 勢勳事奇 名心而 靈之 書畫筆 漁溪山  
 中 松 請 而 戲 中 拜 道 の 為 愉 快 安 可 得 乎 朋子

工学部 二年 久保 壯

羅公遠 州人 開元 叱秋 待 明 宜 於 宮 中 碩 月 公 遠 如 陞  
 下 冀 要 至 鄂 州 人 開 元 叱 秋 待 明 宜 於 宮 中 碩 月 公 遠 如 陞  
 此 用 宮 也 見 德 女 數 百 皆 素 練 寬 矣 君 於 廣 建 非 見 弟 日

法学部 二年 山本 浩司

田中甲申... 法学部二年 山本浩司

法学部 二年 松元 祐一

君少囊疎傳之質其挺高退之殊  
通曠清格發自天然冰絮簡靜道行  
草率將心德哉晉歸仁

法学部 二年 太田 美和

學勤地地星年 老海負網背厚執志向前櫓  
揮者年軍家初居於生計在翠籠三前江湖極大權故  
楊仙桃源漢語不知名海表知不睡陸 美和

工学部 二年 古瀬 徳明

工学部二年 古瀬 徳明

人文学部 三年 松元 惠美

金由全北時及後人 群 慈 東花在人會緣苦掃  
蓮門始為名爾然強年也無兼味曾心家真 蒼語  
尚與斯翁相養飲隔心康呵衣志流和 於若修 也。

人文学部 三年 鶴田 惠子

浦雪終日收通與道情親況雲聲可  
先裏高開以立一重德最教諸嶼  
神 開身誰謂壇 慶外勞洲水不春 惠子

人文学部 三年 島 幸輝

高開五... 願... 會... 專...  
三分... 兼... 白...  
鶴... 山... 日...  
有... 願... 全... 屋...  
幸輝

工学部 三年 高良 俊彦

嘉... 若... 試... 流... 在... 載... 遠... 倉... 此...  
... 家... 峰... 未... 汝... 永... 遠... 出... 更... 切... 我... 物...  
... 向... 先... 坐... 抱... 姿... 痛... 汗... 必... 潮... 共... 結... 旅... 俊彦

法学部 三年 白井 和宏

楓葉紅多秋意有人為客  
新晴酒飲欲管佳節不  
成欲將將知到秋意  
淡月忽感秋意上  
秋意歸人志歸  
秋意歸人志歸

経済学部 三年 中江 寛行

芭蕉圍繞芭蕉石  
芭蕉石芭蕉石  
芭蕉石芭蕉石  
芭蕉石芭蕉石  
芭蕉石芭蕉石  
芭蕉石芭蕉石  
芭蕉石芭蕉石  
芭蕉石芭蕉石  
芭蕉石芭蕉石  
芭蕉石芭蕉石

商学部 三年 山本 哲治

秋意歸人志歸  
秋意歸人志歸  
秋意歸人志歸  
秋意歸人志歸  
秋意歸人志歸  
秋意歸人志歸  
秋意歸人志歸  
秋意歸人志歸  
秋意歸人志歸  
秋意歸人志歸

商学部 三年 脇田 昇英

居林  
仁林  
奇林  
未林  
易林  
獨林  
賞林  
杖林  
末林  
廟林  
旋林  
園林  
樂林

法学部 三年 工藤 大行

覆公州人願走山北  
 下莫長三日香下  
 橋界定如紅結益同  
 寒夫使人大尺公此  
 之皆弄

商学部 三年 安武 淳

萬事若如指中，書之標之札而老  
 陰壽之看提橋有忠者為李  
 五事有翠翠時特定自物言黃  
 風齋者 清本

人文学部 三年 真庭 陽子

蘇武牧羊匈奴事，千古流傳，其忠義  
 壯烈，為後世所景仰。余讀其傳，感  
 佩之餘，爰書此數語，以誌其  
 精神。清本

工学部 三年 森山 清一

風塵僕僕上風塵，志氣昂昂去  
 暮雲。江流萬古花常埋幽  
 竹，香代在。海峽古丘三山半，  
 落著天外之水中。分自歸幽  
 絕。清本

法学部 三年 野口 益記

人生一何之假且飲法海之甘露乎 既如子  
施不居其功不執其功者 已豈能信之設美也哉  
雖世之公望也然也亦不若法海之甘露乎 益記

法学部 四年 中村 友理子

由色而修之至柳 當客為孤殘村稀小也老為  
沛及途出影津光景天辰辰居性枯耳 邊  
雜金車離笑顏矚招免 法海經行 五九子

法学部 三年 吉田 啓子

仙遊翠微入幽香塵跡 塵清 邑相響  
心發清獻人未驟私去僧間洗朱歸莫  
鹿雲景外漢一驅離香山寺依 法海經行 五九子

法学部 四年 佐々木 智子

用效高君  
廣夏有錄  
無語同處  
在雁同家  
惟煥宜公  
燕知五方  
出英中曠  
內粗與苗  
并高有已  
理前張吾  
於龍仲人  
國興以也  
有孝生君  
張愛出此  
良為先  
善行出



青如動機事...  
 連上...  
 本日...  
 見字...  
 元...  
 相...  
 心...  
 口...  
 自...  
 其...  
 在...  
 相...  
 其...  
 水...  
 其...  
 其...

法学部 4年 亀元 美奈子

杜山...  
 松...  
 霜...

法学部 四年 小田 桂子

喜...  
 其...  
 其...  
 其...  
 其...

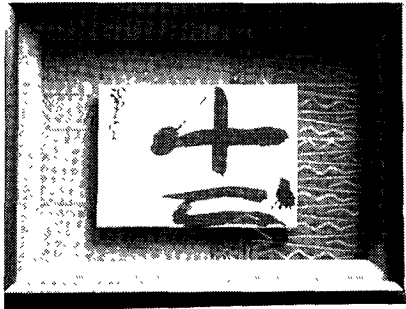
経済学部 四年 中山 美津子

柳...  
 宮...  
 筆...

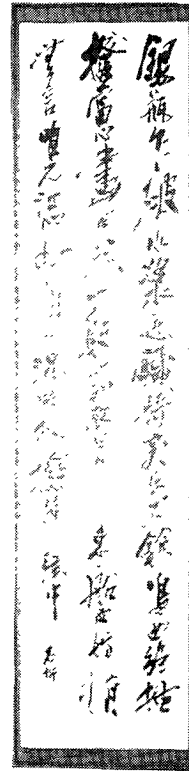
法学部 四年 坂井 喜久代

其...  
 其...  
 其...

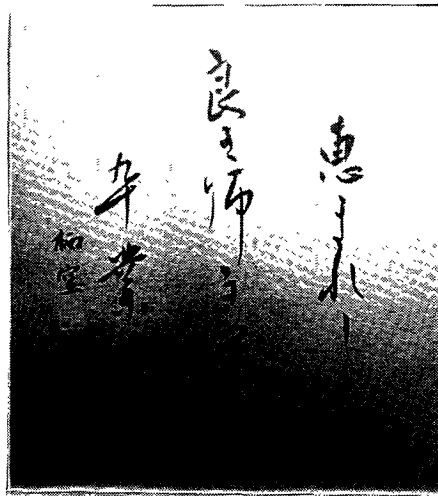
法学部 四年 大倉 隆雄



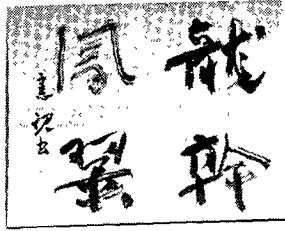
昭和51年度卒業 荒尾 記史朗



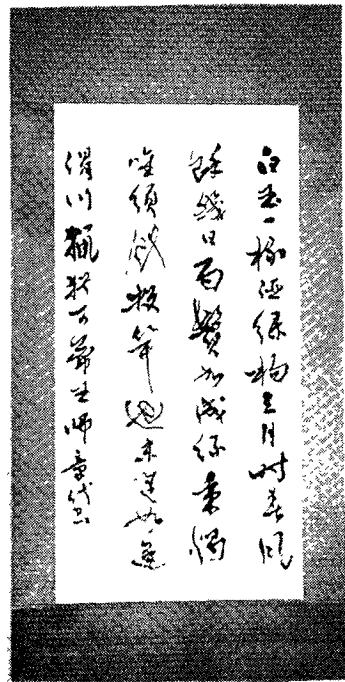
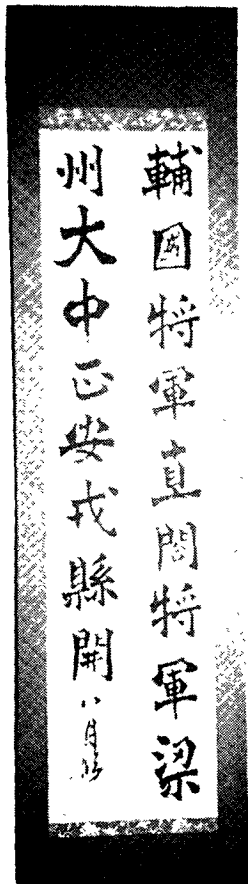
講師 赤木 石掃



昭和43年度卒業 平井 晴彦



昭和58年度卒業 満生 憲親



梅光女学院大学 書道部

特別寄稿

## 《特別寄稿》

晩婚は減る

書道部講師

赤木 石掃

よく生徒さんから「先生解りません」ということを聞く。孟法師が解らない。行書が解らない。隷書が解らない。

私は「解った」とか、「解らない」と言うことについてこう考える。「解らない」のが当然。「解った」、ようなをしていいるのは、「ニセ物」。大体四十年以上も、つれそつた女房でさえ本態が解らない。それどころか、自分自身さえも解っちゃいない。解らないから、解ろうと思つて努力するところに「生きる力」があるのであつて、何物も死ぬ点解らないから、吾々は「生きる力」を持てるのだ。解らない時、具体的に、私はこうする。勿論書道の勉強に限つての話。例えば隷書で、西狭頌から曹全碑に進もうとする。西狭頌も解つてないのに、曹全も同じように解る筈がないのだが、この二冊の古典を並べて机の上に置くことだ。そうすると、この二冊が、全く同じ物に見える者は、先づいない。二つは確かに違つている。同じ物でないことは、小学一年生でも解る。つまり違つていることが解れば、それでよい。あとは、違つているように、そつくり書こうと努力すればよい。そつくり書ける人は世界中一人もいない。が努力することだ。婚約者の人柄も、一生解る筈もないが、他の人と比べて見て、違ひが解れば、そこに惚れれば、あとは、「一生努力」して自分の人生を築くことだ。そうすると晩婚も減る。

冷夏に思う

書道部部长

小西 高弘

最近、米の大区作がニュースで報じられている。農業技術の発展に目がうばわれ、自然を軽視した政治家・官僚のみならず、農民にも責任なしとしない。

今日の高度な科学技術をもつて自然法則の予測は可能であっても、自然の暴威を防止する技術（予防科学、防止技術）はまだ著についたばかりである。とすれば、科学技術の限界を認識し、それに対応

する手段をあらかじめとっておくのが政治家・官僚の仕事である。日常の経済行為は可能な限り農民（生産者、消費者）の自主性にまかせ「非常」に備えるのが政治家の仕事である。農政がノーセイといわれるのは今始まつたことではないが、たつた一年の区作で緊急輸入せざるをえない貧弱さであろう。

米国、アジア諸国はこれを機に米の自由化を促進する気配を見せているが、「世界市場の米」として、常に総米生産量の $\frac{1}{3}$ 、 $\frac{1}{2}$ （300万トンから500万トン）の米が安全基準に合致する形で確保できれば、世界市場の中で米の価格調節と消費者保護を国策として位置づけ、各国との交渉を行うべきであろう。しかし、産業の米・石油は先進国ではどこも必要で、生産者機構と消費者機構を成立させ、安全供給を維持しているが、米ははたして可能か。先進国は米を常食として消費していない。したがって世界の調節機構は成立しない。とすれば、日本人が常食としての米の消費動向を改めない限り、政治家は国民の要請をうけてそれを解決する手段をはかるのが政治家の使命であろう。

貿易の黒字は内政の貧弱さにあり、国内経済の不均衡の結果である。冷夏から、われわれはもつと国内に焦点をおき、「自然から学ぶ」姿勢をとりもどさねばならぬ。

『縁』

書心会会長 柴田 一夫

「縁は異なもの」という諺がありますが、この諺の意味は男女の結婚にいたる縁を言っていることですが、ところがその結びつきは、人間の予想しないような経路を経ていることが多くまことに不思議なものであり、おもしろいものであります。

この縁如何によつて人生も大きく左右されるものであり、縁というものは神がかりではなからうかと感じられるようになりました。人生の中で、良い師、良い先輩、良い同輩、良い後輩又良い家族に支えられている今感謝の気持ちを感じざるを得ないのです。

例えば、福大に入学し書道部に入部するまでは自分の意思、努力

できることですが、先輩、同輩、後輩にめぐり逢うことは自分の意  
思ではどうにもなりません。これは縁ではないでしょうか。この縁  
というものを、ただ単にサークルの一途期の知人として終わるか、  
又はこの得難い縁を大切にすることは本人次第であります。出来るも  
のならばこの縁を大切に、一生の宝とすべきであると私は切実に感  
じる今日この頃です。

この縁を一步前進させると、よきライバルを作り良い競争相手と  
なり切磋琢磨することです。縁で結ばれたライバルがいる  
小集団はすばらしい発展をするものです。書道部の創世期にも原対  
諸隈、安河内対西、堀川対平川対田鍋、中島たい有田等々というす  
ばらしいライバルが競い合って書技の向上や部の発展に貢献してい  
るものです。書道部の歴史の中でもよき縁（ライバル）に恵まれた  
代の活躍は枚挙に事欠かないものです。

このように縁というものを一過性の知り合いとして見過ごすので  
はなく折角天からいただいた縁を感謝の気持ちで大切に増幅させて  
行くことが必要ではないでしょうか。

### 私の現役時代

昭和四十六年度卒

安河内 純一

まずは、現役諸君の活躍を、心から嬉しく思っています。卒業以  
来早いもので二十余年が過ぎました。原稿依頼があり、古いアルバ  
ム荒鷲等を見ますと、何を皆様に、お話ししようかと迷いましたが、  
春季、夏季の合宿についてふれたと思います。春季は、阿蘇が空  
番でしたが、私共が役員の時に、江田島青年の家を訪ね、この地に  
て初めて合宿をさせて頂く事になりました。当時幹事の小野君の軽  
四輪に、四人も乗り込み、一昼夜かけて、江田島に渡りました。こ  
の下見は現在では、考えられない程の時間を費やしました。数カ月  
後の合宿で、部員の殆どが、初めてのカタター訓練を経験し、次年  
度も、是非この地で皆が思ったものです。夏季の合宿は、四年間、  
太宰府の文書館似て、書技の向上を目指し、赤木先生の熱心な指導  
の下、早朝五時起床三十分後に練習開始、朝食の八時位迄空腹と立  
ちくらみを覚え乍ら、筆を握っていました。朝食後昼食迄の練習、

昼食が済んだ後の二時間ほどの休憩が天国です。現在の様に、C、D、  
カセットもなく、ラジオと持参のギターが唯一の楽しみでした。休  
憩後又々夕食迄の三時間の練習、食後の練習、批評会と続き終わ  
るのが九時頃、各々各班の片付けの後の銭湯通い、部員皆足の裏は、  
真つ黒で銭湯のおばちゃんから、「足の裏をしっかりと洗って、入っ  
て」と言われ、苦い思いをしたものです。今思えますと、本当に懐  
かしい思い出です。私の頭の中で、先輩、後輩の顔が次々に浮かん  
できます。

現役諸君の、今後の活躍を祈りながら。

### 七隈の風

昭和五十一年度卒

荒尾 記史朗

カラロコと下駄を鳴らし、キャンパスを闊歩した。  
見るもの、見るもの新しく夢膨らませ七隈の空気を胸いっぱい吸い  
込んだ。

羽織袴、髭顔で下駄履、よく見ると頭には学生帽がちよこんと載っ  
ている。スカズカと私に近寄り、応援団に加入しろと言われた。人  
を応援するのはさらいじゃあないが、まずは己を鍛練してからと、  
丁重にお断わりし書道部の門を叩いた。

部室は、紫煙に包まれ、熊みたいな大男で溢れていた。  
「練習日は、月、水、金、まじめに来るように」

「はい。」

私達の新入部員は二十名ほどいたと記憶している。初めて筆を握  
る人が多かった。  
高校時代は、書の先生に付いて、佐賀の田舎では随分腕を鳴らして  
いたのだが、赤木先生の前では、地獄の底の底まで叩き落とされた、  
がしかし、石を掃き寄せる勢いで導いて下さった。

これまでの習字の域から、芸術的な書のおもしろさも少しづつ教  
えてもらった。

一本道から四方、八方の道に光が差し水を符た魚ではないが、友  
達もたくさん出来思い出話を上げると切りがない。  
今思えば、大変無茶なことばかりしたが、今でもその癖は直らな

い。赤子が煮え立つた蒸籠に手を触れるまで熱さがわからないように、どんなものにもぶつかつてみた。  
人間の世界にあるものは所詮、人間の知恵と技、上手、下手はあろうとも自分に出来ないことはない。これを信念に、よく遊ばせて頂いた私にとって学生時代は本当に意義のある時間であった。

### 「創造」

常任幹事会 幹事長 末岡 昌文

自主的創造活動とは何か。我々学術文化部会が自らの活動を総称して用いる言葉、この自主的創造活動について幾つかの見解を述べてみたい。

統一的な解釈は、「会員自らが企画、運営を行い、各自の個性や創造性を活かし、模倣ではないけない、新しいものを考え作り出す活動のこと。」である。だが、それだけで、ただこの解釈を付しただけで、全て納得のいく、説明を果たし得るものとならうか。

新しい時代を切り拓き、より望ましい状況を志向しての生きる働さが、将に生き生きと営まれていく時、そこに「創造」がある。より人間的な「自由意思」がある。個人が社会から規定されると同時に、個人が社会を変えていく、この相互作用が、その営みをより深いものにする、そう我々は考えたい。

そもそも、課外活動とは、修練と創造によって為され得、知性と個性を練磨する人間形成の場として大学という舞台に立つ。また、そこに於ける個性は、サークルという小さな社会を形成する創造者である。個人相互で切磋琢磨し合い、相互理解、相互批判という過程に於いて成長を為すと同時に、他からの批評を受け入れる態勢を確立する。さもないとその成長は、自己満足的なものとなる。

創造者たる我々は、他の創造を賭けて努力している者の心の中の内を理解せねばならない。本誌発刊に際し、より高く、深い創造を求め以上、発刊に寄せる言葉とする。

年  
間  
行  
事



クリスマス・パーティー

四年 佐々木 智子

今年も幕を閉じようとしている十二月下旬。街はイルミネーションとクリスマスソングで溢れている。福大のセミナーハウスである書道部のクリスマス・パーティーまではまだ時間があるから、天神から歩いていくことにした。どうして書道部でクリスマス・パーティーをするのだろう。忘年会ならコンパ会場で思いきり大騒ぎすればいいのに。パーティーに着ていく服もない。ましてや役員終わってすぐに。三年間振り返るとGパンとTシャツの生活で、着飾ることなんて知らない。高校の時クリスマスと言えばキャンドルサーブスそして聖歌を歌ったものだ。ベスト・ドレッシング賞と言えば、当然四年生がもらう賞とばかり思っていた。母に洋服を借りた私は予想外にもその賞を獲得した。周囲では違う人の名が上がっていた。恥ずかしかった。私はパーティーが始まる前の緊張感が一番好きだ。緊張感。

追い出しコンパ

三年 吉田 啓子

今年も、恒例の追い出しコンパが、昼と夜の部に分かれて盛大に行われました。まずは昼の部。10号館横のグラウンドで、"キックベースボール"と"ひまわり"といった非常に体を動かすゲームがありました。動きすぎると、後々支障が生じると感じつつも、そこは卒業される先輩方、ついハッスルされている様でした。そして夜の部。場所は高砂。沢山のOBの先輩方が来られ、又、皆、それぞれの思い出話に花が咲き、とても盛り上がりました。卒業される先輩方が、一人ずつ話をされている時、本当に卒業されるんだなあと実感しました。振り返れば、この代の先輩方には大変お世話になり、又、沢山の御迷惑をかけてしまつて・・・感謝の気持ちと申し訳ないという気持ちが入り混じつて、なんとも言えない複雑な心境になりました。こんな事を書く時、また、お前がそんな事を・・・という声が、どこからか聞こえてきそうです。でも、先輩方には、本当にお世話になりました。(今更ながら、この場をお借りして言わせて頂きます。)

先輩方、就職されて数カ月経ちましたけど、お元気ですか？ 今度、また会えるのを楽しみにしております。

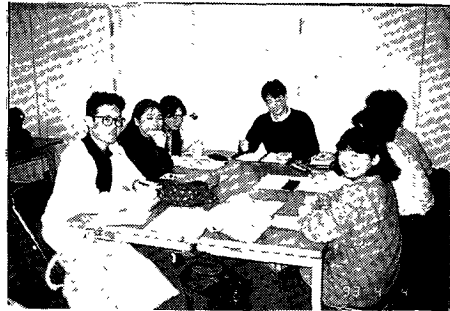


今年の春季合宿は、四月二日から、四日まで福岡県立英彦山青年の家で行われることになった。私は何を血迷ったのか、班長を引き受けてしまったのである。

四月二日から四日までの『私』はこう語る。「そりやもう大変な三日間だったよ。特に討論の時なんか最初の方は頭が混乱しちゃって一体誰が議事進行やっていたのか分からない程だったからね。」情けない『私』ではあったがちゃんと努力はしていたのだ。今さらながらあと二日、いや一日でも時間があれば良かったと思う。

『私』は続けて言う。「確かに結構苦勞したけど決して後悔はしていないよ。みんなの色々な考えを引き出し、吸収する事が出来たけど実行に移さない事には全く意味の無いものだしね。」完全に開き直った感もあるが、この合宿を通じて考えた事、学んだ事はたくさんあった。勿論、討論の事だけではない。集団を統率してゆく上での様々な対処等、自分にとっては本当に良い試練だったと思う。

あまり中身の無い文章になりそうなので、ここで合宿ダイジェスト。行き帰りのバスでは、持病の車酔いに悩まされ、環境の変化に弱いデリケートな私の胃袋には、某先輩の大盛りの飯が注がれ、すずきの広場では左手に全治十日の軽傷、合宿が終わったら風邪でダウン。結論・・・私は体が弱い。余談ですが、班対抗バレーボールの時の私への激励、本当に感謝しています。



新入生勧誘週間

二年 山本 浩司

四月十二日から十九日まで新入生勧誘週間が行われた。あれからもう一年もたつのか、あのころは俺も若かったなあと思いつながら勧誘場所に座っていると先輩が女の口を連ねてきた。「おい、説明しろ」その一言を残して先輩はまた女子を探しに行った。説明しろといわれてもどう説明すればいいんだ、自分が

一年経験していい部であることは分かっているてもそれをどう説明すれば、より理解してくれるのか全然わからないがとりあえず説明を開始した。自分でも何を言っているのか分からないので、多分相手も全然分からなかったと思う。自分が説明した中でどのくらい人が入部してくれるのかなあと思いつながら勧誘場所座っていると、説明しても全然聞いていない人、反対に熱心に聞いている人、さまざまでいろんな人間観察ができておもしろかった。

そして、自分はあるときから気が付いた。なぜか先輩の連れてくる人に女子が多い。いやむしろ女子しか連れてこないのだ。昨年が失敗？(女子が三名しか入部しなかった)したために女子獲得に必死になっていた。そのおかげで今年女子が九名も入部し、僕も少しうれい。男子も七名入部して、これがまた頼もしい。

一回生にはこれから十六名で協力して福大書道部の伝統を共に築いていきたいものだ。一年生の諸君、これからがんばろう！

新入生歓迎会

一年 光石 恵子

平成五年、五月一日、土曜日、晴れ。昨晚「おにぎり十個以上作るんだ。」とはりきってセットされた二つの目覚し時計は、私の右腕だけをそっと起こしたらしく、私が飛び起きたときには平然としてひっくり返っていた。大変な一日がこうして始まった。まず登の部は班対抗のバレーボール大会で

した。「ポートボールとか小学校ぶりやん」ということで、ちよつとはりきつてみたのですが、優勝候補とも思われたかもしれない我がチームは0勝全敗で惜しくも敗れてしまいました。だけど、いっぱい走っていっぱい汗を流したので五キロはやせました。なんて私にはとても書けません、ひたすら走った試合の後の全体写真の顔が一人だけ真っ赤である。というのは悲しいことに事実であるようです。

さて、授賞式も終え、昼の部が無事に終了して、何息かついてからバスで「高砂」へと向かいました。いよいよ夜の部が始まってしまいました。乾杯して、鍋をつついて、自己紹介をして、ボーッとしていると、先輩方への挨拶回りが始まりました。この時初めて日本酒というものを口にしたのですが、一杯目で顔が熱くなるのを感じ、二杯目で顔がふにやっとなつて気が付いたら笑っていました。何がおかしいのか聞かれても困るけど、笑いすぎで顔は痛いし、お腹は痛いしで、むしろ泣きたいくらいでした。普段でも一度笑い出すと止まらないほうですが、あんなに笑ったのは生まれて初めてだと思います。翌朝、顔の痛みが残っていたのには自分でも飽きれてしまいました。次回の飲み会の時は筋肉痛防止の為に顔のストレッチをして行こうと堅く決心しました。とにかく昼の部も夜の部も楽しかったです。



#### 春季学生部長杯争奪球技大会

二年 池田 留理子

去る五月十六日に春季学生部長杯争奪球技大会が行われた。去年女子バレーは春、秋共に一回戦負けという悲しい状況であった為、今年こそは一回戦勝ちをしようとして少しばかりはりきっていた。と、さっそく一週間前から朝練を始めた。最初は怪しい気持ちで円陣パスなどをやっていたのだが、なかなか今年の一年生は有能ばかりであった。これはひよっとすると一回戦勝ちとわざわざ二回戦までもいけるのではないか。結果は三回戦までいった。四回戦目はちよつと惜しかったが残念ながら負けてしまった。でも精一杯頑張ったし、思ってもみなかった三勝だったのだから、最高に嬉しかった。一方男子ソフトボールの方はというと、残念ながら一回戦負けであった。私は、ふとどきにも寝坊して遅刻してしまい、試合の方は半分くらしか見ていないし、差し入れも一回も行かなかったのだから、あまり大きな事は言えませんが。とりあえず秋季は男女共最低一勝はできるように頑張ります。その為にも朝練はサボらずに・・・来て下さい。

#### 学内展

一年 森田 国昭

大学生活に入って早くも一ヶ月が過ぎようとしていた。高校の時とは違い、大学は自由に満ちあふれていた。

私は書道部に入り、毎日楽しい日々を過ごしていた。そんな時、学内展があるということを知った。私にとって学内展とはもちろん

初めてのことであった。ところが大学に入ったころ、あるきびしい部に入部をせめられていたため、満足ができる作品が出来上がらないまま、学内展に入ってしまった。非常にくやしかった。

実際に学内展を見て私はものすごい感動を覚えた。先輩方の作品を見ていろいろな書法技法があることを知ってびっくりするのと同時に、とてもすばらしい作品ばかりで、すごいとしか言いようがなかった。一年生の作品を見て、すばらしいものばかりで私としては差をつけられたと思った。そのとき私は、もっと練習して、ほかの人々に感動を与えられるような作品をつくって、こうと心に誓った。私にとって学内展とは、次に向けてのステップであると思った。

### 「能古島」

一年 住吉 弘子

六月二十六日(土)。

前日の雨がまるで信じられないほどの晴天ぶりだった。

この日は芸術文化部会中心の行事である。音楽の夕べもあり、なにかと忙しい日であった。拓本取りということで、ダンボールに一応の道具を入れ、出発したわけだが、朝の集合時間・場所等がしつかりまとまらず、荒尾さんや、御夫人にも大変迷惑をかけてしまった。船にはたった十分程度しか乗っていなかったが、ともかく久しぶりで海の潮風が何とも言えず、この時、やっぱり来て良かった。"と思いました。日頃の慌ただしい生活からまるで解放されるようだった。そして能古島に着くとすぐ荒尾さん宅へ行き、数々の工芸、書、また新聞や広告を使っ

た絵などを展示していらつしやる部屋、仕事場、茶室なども見せてもらった。ともかく家の中も、外の入口など何もかのに工夫が凝らしてあり、すばらしかった。

そして少し落ちついた頃、昼食となり、そーめんを頂いた。とってもおいしそうなのに、こもったお弁当を披露されている先輩もいた。拓本のほうも、何度が苦心しながらも、どうにか取ることができて安心しました。音楽の夕べ"では、みんな我慢大会・・・？さすがにぐったりでした。いつも楽しくワイワイやるのもいいし、時には、のんびりした雰囲気味わうのもいいものです。

### 夏季合宿について

二年 立石 泰寛

えーそれでは私の方より夏季合宿を説明させていただきます。

平成5年度書き込み合宿は、破天荒の名の元に40余名の若者が宮地獄地社に集まりました。人類史上初、歴史的大抜的という出来事が今回の合宿でありました。それは、何とわたくし立石が、2班の班長をやったということです。わたくしはこの合宿の班長になるにあたり体をききたいあげ、一時血尿までするという状態に(ウソ)なりながらも、なんとかやり遂げました。合宿中、工藤さんのウエストが大きくなっていくのに気が付きながら、班長として責任を果たせたかは疑問でありましたが、班長の方々がわたくしのくだらないギャグに笑ってくれて、楽しい合宿であったと考えております。

そして入浴時にも一混乱がありました。工

藤さんが湯ぶねからだとお湯がほとんどなくなってしまうという事態を尻目に、な、なんとわたくしめは、一年生の女子にヌードを見られてしまったのです。昔、八女のあたりで勢いのあった江上さんにです。あのときはとてもはずかしかったです。あと一年生の川原君がわたくし達の為に、びしょぬれになりながらもあわづ口をつくってくれましたことも御報告させていただきます。

それと夜の反省会が終了した後に、昔、痔をわずらっていたと評判な工藤さんに話を聞いて頂いた時、開始5分でわたくし立石が、ノックアウトしてしまったことは深くおわび申し上げます。

簡単ではありますが、以上でわたくしの方より夏季合宿の説明を終わらせて頂きます。

最後になりましたが、班長であるわたくしを影でささえてくださった、大倉先輩、高良先輩、吉田先輩、工藤先輩、誠にありがとうございます。そして残り班長たちもありがとうございます。おつかれさん。



七隈祭について

一年 大久保 隆史

第三十三回西日本高等学校揮毫大会

三年 工藤 大行

『ふうつ、やつと終わった。』  
これが七隈祭が終わって最初に思ったことである。

今年僕は、初めて七隈祭に参加した。それも七隈祭実行委員としてである。実行委員、つまり一年の中で最も偉いのである。(うそ) まあ実行委員たる名ばかりで実際動いてくれたのは、他の一年だった。おかげで僕は、随分楽だったように思われた。

では、七祭でのイベントを一つずつ思い出してみよう。

まずは、市中パであるが、始めは寒いし恥ずかしいし、もう帰りたいという気持ちだったが、一旦、パレードが始まったらなかなか楽しいもので、あやうくクセになりそうだった。ここでは、N先輩の殿が非常に印象的であった。

次に、バザー。これは、ただ忙しかったと記憶している。あと、ここだけの話だが、ちよくちよくつまみ食いをさせてもらった。これは、非常にラッキーだった。

展示は展示で人には言えない集獲があったのでよかった。  
忙しさが目立った七祭ではあったが、それなりに楽しんでよかったと思う。それに、自分で楽しむとうとしないと、きつさだけでやられなくなることだろう。

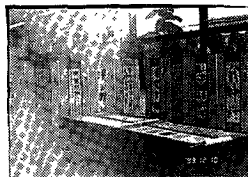
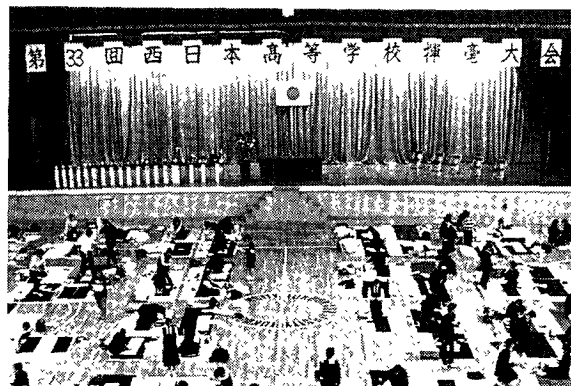
おわり

33回目の揮毫大会が今年も、31校、20八名の参加で無事、幕を閉じた。最多参加校という目標には届かなくも、充分満足出来ものであった。

さて、今大会から公開審査に於けるコンピュータの導入、展示会、学校紹介、又、部員の大会中の食事時間の確保、係員へのイスの使用を試みたが、段階を踏まずに一勢に行つた為、細心まで行き届かず問題も生じたが、今後の大会を作る上でいいきっかけとなつたと確信する。

又、今回は最大行事である意義を指す事以上に、今大会の活性化、今後の部、活動作り、この時期に対するこれまでの部員の意見感想を大切にしたいつもりであるが、これは、もっと楽にしようとかいうのではなく、部の現状、学生氣質を卒直に受け止めた上で、最善だと判断した結果だった事を理解して頂ければ、幸いである。

高校球児が甲子園を目指し、日々精進する事で、技術、精神面の成長をみる事と同様に我々にもいい経験の場がなければ一層の成長はないし、又、いくらいいものがあったても、それを活かす者がいなければ、それも無意味なものとなってしまうことを、もっと一人一人に意識してもらおうが今後の課題であり、既成された部活をやっている中で私達の真の創造、自主性、「自分も一役を担っているから意見を言い、目立つぞ。」等責任感につながっていくのではないかと、大会が終わつた今、しみじみと思うのである。



部  
員  
投  
稿

自分の高校時代

一年 鶴田 政彦

皆さんは、高校生時代いかがお過ごしでしたでしょうか。自分の高校生活は、ほとんど気力に欠けていました。先生も、ほとんど声もかけてくれませんでした。けれども、自分がかつてくれた唯一の先生は卒業式の日に、「おまえいい声しているから、アナウンサーになれ。」と正体不明の言葉を残し去ってしまいました。

こんな自分の唯一の支えは、野球の部活のはずでした。ところが試合の時、先発を言われているにもかかわらず、寝坊したりギックリ腰で、遠征につれていってもおなかが空いたり、極めつけは、クラスが集まりがあつて、近くの女の子を送っていたら、監督に見つかり、さんざんおこられたりしました。

部室がだめならと、勉強に精を出したものの、一応特進クラスですが、ドベから二位でした。

勉強がだめならと、今度は女の子を探しましたが、あえなくふたまたまをかれて散りました。

自分の高校生時代は、全くといっていい程いい事がありました。神に見放されたかのと、思った時もありました。けれども、いつかいい事があるという事を、信じて生活してきました。もう何が何だか分からないので、そろそろ終わろうと思えます。

「限られた時間」

三年 安武 淳

人には、限られた時間しか与えられていない。いつかは命の灯が消えて生涯に幕を下ろしてしまふ。

大学で生活、ほとんどは書道部で過ごすわけだけど、やっぱり時間が限られている。自分は、このように人に与えられた時間が限られているからこそ、その時間を無駄に遣うまいと、やたいことに夢中になったり、一生懸命になれるんじゃないかなと思う。

限られた時間。これを有効に遣うにはと、僕は考える。それは、

目的をもつことじゃないかと感じる。その目的も大きい方がいい。若い頃には、苦勞は買ってでもしろというけど、自分も今、苦勞かどうかは知らないが、経験を通じていろんな事を学んでいる。苦しいと思うこともしばしば。でも、苦勞を苦痛とは感じて、苦痛を負担だとは、考えてはいけないと思う。物事を苦勞してやりとげた時に本当に笑顔で笑えたり、まわりへの思いやりに、氣付くのではないかと思う。

結局、自分が言いたいのは今、自分が信じてやっていることに、ひけめを感じないでやっつていこうというのである。そして、いつでも前向きな姿勢で、キレイ事を、キレイ事で済ませない為に……まだまだハタチ、限られた時間は、はじまったばかり。

「フランスでの体験」

四年 細川 文子

パリのメトロ(地下鉄)には、いろんな人種の人がいる。パリっ子であつたり、アメリカ人、イタリア人、イラン人、そして黒人など、日本では、全く考えられない光景である。メトロに乗ると、必ずと言っていいほどギターを持った男の人が現れる。彼は丁寧に挨拶し、曲をみんなに披露し、帽子の中に、お金をいれろといわんばかりに、一人ずつに一人ずつに声をかけていくのである。また、ある少年は、一人で人形劇を披露していた。人形の洋服もすべて手作りであり、ストーリーもオリジナルのものであつた。初めて、メトロに乗った私は、周りの人の目がとても怖くて、目があうたびに、どきどきしていた。辺りを見れば、日本人は私だけ。みんなが驚いがかつてくるよな気がした。そんな私が、2、3日後には、メトロに乗ってパリだけではなく、日帰りできるところまで行くようになった。1ヶ月後には、一人でフランス一周の旅をした。1泊、100フランのホテルに泊まることもあれば、400フランのホテルに泊まったりもした。反対に食事は、フランスパンとチーズ、時には、マクドナルドでハンバーガーを食べた。

この旅行中に、一度だけ、悪い思いをしたことがあつた。イタリア人の男性に声をかけられ、後をつけられたのである。そんな悪い

間が限られている。自分は、このように人に与えられた時間の中で、限られているからこそ、その時間を無駄に遣うまいと、やたいことに夢中になったり、一生懸命になれるんじゃないかなと思う。それは、限られた時間。これを有効に遣うにはと、僕は考える。それは、

思いをしても、またフランスに行きたくてたまらないのである。

はだしのゲンの人生路線転換についての考察

二年 松元 祐二

私は開花しにくい男らしい。本性の開花に苦勞する人間らしい。平成四年度、つまり私が一年の頃は人の目を見て話すのも苦手、同輩、上級生の名前と顔とを一致させる野に何ヶ月もかかったほど「ウブ」な男であった。

初めて私の本性が開花し始めたのは平成四年十月中旬頃であった。場所は福岡大学自修寮北寮三階七〇二号室であった。

その日の夜、その部屋で私を含めて四人の同輩で人生について語り合いをした。いつしか私はうまくはめられて、ウォッカをストリートで何杯か飲まされた。後で聞いた話によれば、飲みした後、私はスキップしながらスライディングし、やつのことで床につかせたらつかせたで、吠えまくったらしく、翌朝五時頃、吠えながらトイレに行き、二時間ぐらい、個室でうずくもったままねていたらしい。この事件があつて以来、私の心の堅い殻にひびが入り、人間的に一皮むけた。

この時点で私の「路線」に変更が生じたが、これを決定的なものにしたのが、平成五年四月二十日の勧誘週間打ち上げコンパであった。(この事はあえて述べるまでもないだろう。ああー恥ずかし。

ちなみに後輩を迎えるにあたり私は決めの路線でいこうと誓いをたてていた。しかし、この事件後、やむなく「おちやらけ路線」を歩むこととなった。結局、私の開花は、一年余りを要した。いやはや、長い年月であった。

最後に私の経験から、次の言葉を後輩に捧げよう。

一、馬鹿を大いにすべし。今だからこそ、笑って許せる。度胸もつく。

一、自分の隠れた本性の開発に日々努力すべし  
また調子に乗ってえらいこと言ってしまった。柄に合わねーな！

マクドナルドで、一度だけ、悪い思いをしたことがあった。イタリ  
この旅行中に、一度だけ、悪い思いをしたことがあった。イタリ  
ア人の男性に声をかけられ、後をつけられたのである。そんな悪い

「無題」

一年 光石恵子

福岡大学に入学して、書道部に入学して、今までの生活が信じられないくらいに変わってしまった。今まで部活といえは小学生の頃に入っていたミニバスケくらいで、その後は帰宅部にはか入ってこなかった。帰宅部には「先輩」だとか「後輩」というのはなくて中・高時代には部活生がうらやましく思えることが数々あった。書道部に入学して、良い先輩、同輩をもつことができて本当に良かった。と話が完結してしまつては困るのですが、何も浮かんでこない、しかも締切りは今日、なんてテレビドラマに出てくる作家にでもなった気分です。でも図書館の中は冷えきつていて肌寒いので早く外に出たい。だからとりあえず何か書きます。先程の話の続きなのですが、高校時代は朝早くから夕方までただボーッと勉強して、友達と話してホームルームが終わればすぐに帰って七時には家に帰ってきている。といったボーッとしている時間の多い、似たような一日の繰り返しでした。それが今では月・水・金の部活動、火・土・日のアルバイトで一週間があわただしく過ぎていく。今まできつことを避け続けていた私がかんなんに変わったんだ。ということも言いたかったのであるが、語学とセンス不足の為、見事に失敗してしまつた、というわけです。自分なりに書くことと一応努力したということ、「書き直し」という言葉が出ないことを祈りながら部室へむかおうと思う。最後に、読者の皆様、とんでもない文章ですみませ

最近思うこと

一年 宮原 正樹

今年で、十代も最後となつてしまった。淋しい限りである。この前十六歳だったかと思つたのに、時の立つのは早いものである。い



よいよ二十歳になるわけだが、なつてしまつたらどんな気持ちだろうか。とりあえず成人するので、何か目標を持ちたいと思うが、今のところは車の免許を取ることと、ストリートで卒業することである。とまあこんな平凡な目標しか現在はない。

ところで、自分は気がついたら書道部に入つていた。本当はバドミントンが続けたかつたのだが、不思議なものである。時々、自分は何かやっていると意識するのだらう、と思う時がある。要するに考えずに、行動してゐるのである。刺激がない生活とは、こんなものかと時々思うが楽とをえば楽かもしれない。しかし、何かが足りないと思う今日この頃である。高校の時のような、がむしやらの気持ちはもう一度味わつてみ言ひものである。そのためにも、やはり刺激がほしい。何か試合に勝つため猛烈に練習するような燃えてくるものがないだらうか。高校時に好きだつた「一生懸命」という言葉をもう一度心の中に再現してつたい。とまあ最近はこのことを日々楽観的に考へてゐるA型の自代である。

何も無い反面、これから何が起るか楽しみな面もある。ただ後悔するようなことは、あまりしたくないと思う。まあ、大学生活はあと四年間あることだし（四年間じゃないかも知れない。）なるべく気ままに楽しくやつていきたいとおもう。

ふと思つたこと

二年 太田 美和

「夏と冬、どっちが好きか。」と聞かれたらどう答えるか。これは質問されることが多いと思うのだが・・・私は、「夏」と迷わず言うだらう。なぜなら、暑いのはまだ耐えられるが、寒いのは我慢できないからだ。風邪は引いてしまふし、下手をすればあかぎれ、霜焼けができてしまふからでもある。

しかし一方で、「冬の方がいい。」という人もいる。理由としては寒くても走つたりすれば体を温めるが、暑いのはどうにもならない事が主で、他に様々なものを聞く。

私の理由を見て、そんな些細なことだと感じる人もいるだらう。けれども、私にとつてみれば冬のマイナスの方が、夏のそれより

も占める所が大きい。寒い所に、あまり行つたことがないせい、マイナス面ばかりを見てゐるせい、冬のプラス面を見い出せないし、思いつかない。

ふと思つた、なんて損をしてゐるのか、なんでもつたない事を。冬の良さを味わえないなんて。

このことに限らず、多くの事について人によつて考え方、とらえ方が違つたらう。しかし一つの思考にとらわれて、他の価値観を知らなかつたらう・・・他の考えを知ること自分大きくできるような気がする。

夏と冬、あなたはどつちを思ひますか。

福岡大学に入学して

一年 森田 国昭

福岡での生活が始まつてはやくも3ヶ月が過ぎ、もう目の前には前期試験という大きな壁が立ちばかっています。

今はようやく一人暮らしにも慣れ、自分の生活のリズムというのが基きつつあります。といつても毎日のように友人が遊びに来たり、逆に自分の方がいつたりという具合です。入学した頃は、はつきり言つて右も左も分からず、毎日が暇で退屈な生活だつたので、自分が4年間頑張れるサークルを探そうと思つていました。それで文化系のサークルの中で自分にいちばんあうものはないかなと思つていたところ、書道部にめぐりあうことができました。がしかし、ある体育系サークルOB部がそれをばんだのです。それはサークルの勧誘期間での出来事でした。書道部のとてもかわいいお姉さん（Y先輩）に部の説明をしてもらい、自分でもすこしやつてたこともあり、ほぼ入部を決意してしまいました。がしかし、自分に甘い声がかかつてきました。それがO部でした。ありがたいことにこの部は自分の許可なしに本入部にして下さり、毎日電話して下さつたり、家にきて下さつたりして、とても刺激のある生活を送ることができました。今では、ようやくあきらめて下さり、今ではほつと胸をなでおろしてゐる所です。

本当に本入部した書道部は、自分にとつてとても貴重なものとなつ

ています。

手本とにらめっこして集中している2時間の間が一日の間でもっとも大切な時間となっています。先輩、同輩の方々もみなさんいい人ばかりで本当に書道部に入ってよかったです。つくづくおもいます。まだまだ書に対しては未熟なので、もっと練習して頑張りたいと思います。

「p・s 大阪にて」

四年 佐々木 智子

大阪の街は飲食店にもかかわらず、呼び込みをして活気がある。生まれた時から福岡に住んでいる私にとって新鮮で楽しい。大阪は人も多いし、悪い人も多いというから心配だったけど、やっぱり自分の足で歩いてみて初めて大阪の良さが分かった。自分の足で歩いてみる。そしたら思いもかけない宝物を見つけることもある。私は就職活動で来たのだが、小学校の時の友達の家泊まり、夜はミニミにでかけた。公園には若者がたこやきを持って集まっている。もつと違和感があると思っていたけど、そうでもないのは意外だった。地下一階、地上八階建ての生活情報雑貨館の梅田ロフトには、三十万点もの雑貨や情報があった。色々な所を彼女は案内してくれた。彼女はすごく明るくて、おてんば娘そのもの。原付でよく捕まっただ数がそんなにないということに笑って言う。彼女は私の憧れであり、私の大事な友達である。二十二年間も生きていると、その時期その時期で学んだことがたくさんある。財産として、私の中に積もって行く。大学に入って、バカなことばかりやってたと思う。もつと肩書きを作ろうと思えば、たくさん作れたと思う。もつと判断力をつけようと思えば、自分の意見だけ動けばいいと思う。でも違う。大学時代のモラトリアムは一生を生きていく上での大きなステップとなり糧となるだろう。今しかできないこと。

たった一つ後悔することを挙げるなら、素直になれなくて人を傷つけてしまったこと。その他は何も後悔していない。来年はどういう生活を送っているんだろなあ。どんな時も感謝と奉仕だけは忘れない余裕のある生活を送りたいなあ。今度はどんな自分を作ろう

かなあ。

無題

三年 白井 和宏

自分が福岡大学に入学し、書道部に入学してから早三年目を迎えています。その間に色々な人と出会い色々なことを学びました。その中で一番痛切に感じたのを書いていこうと思います。最近、学生気質の変化と言う言葉をよく耳にします。以前の学生はどんなことにも一生懸命であったと聞きますが、現在は自分の事以外は無関心といった学生が増えてきていると思います。時代の流れと言われればそれまでもかもしれませんが、社会に出て一歩手前の大学生生活がそれでいいのでしょうか？確かに大学に入って適当に勉強して適当に遊んで適当にバイトして適当な所に就職できればいいかもしれませんが、でも大切なことは自分という人間をどれだけ成長させることができるかということです。自分が部員として入ると自分自身も成長させることができるかということがあります。またそれを評価し、一緒に協働してくれる仲間という者がいます。あなたも「何か」を追求してみませんか？「何か」はあなたの人間的成長、つまり「人間形成」にすばらしいものを与えてくれることは間違いないのだから……

文集やその他色々な所で、自己紹介の一般的な質問は好きな食べ物、好きな色、好きな言葉などが挙げられる。その中で最も私を困らせる質問は好きな言葉は？である。というのは好きな夢、希望、努力などいろいろあるがこれらはいまいちピンとこないからである。そこで、私が本当に好きな言葉とは何であるか考えてみた。荒鷲三十一号をパラパラとめくっていたところ、『一期一会』という言葉を見つけた。これは中学か高校の国語の授業で初めて知ったことばであり、それ以来私の中に絶えずあったお気に入りの言葉であった。この意味はうる覚えだが茶の会においてその会が一生に一度の会であると思ひ、その場を大切に過ごすべきだというようなことだ。この言葉を思い出すとこの時は一生に一度しかないと考えて今でできること、今しかできないことを考えてしまう。例えば積極的に色々な行事に打ち込んだり、友人と馬鹿騒ぎしたり、落ち込むときは思いっきり落ち込んだり・・・と。だからこの言葉は単に好きではなく本当に私のお気に入りの言葉なのである。好きな言葉について偉そうなことばかり書いてしまいました。みなさんもお気に入りの言葉を見つけて下さい。いろんな場面ですつと浮かんで元気づけてくれると思えますから・・・

ふと思ふこと

改めて、原稿用紙の前に座ると、何を書こうと思えば思うほど、筆は進まないものである。だから、今、自分が思うこと、考えることを順に書きたい。手始めとして、今しているバイトについて書いてみる。職種は、居酒屋である。とは、いっても学生、OLなどはほとんど来ないので、サラリーマン相手である。これがまたおもしろいのである。彼らの、話す内容も色々あるが、仕事関係のものから道楽のことまでと様々である。それに笑っている人、怒って途中

帰る大人気ない人までいると、それを見て、自分はある風にはなりたくないなとか、あんな態度は気を付けようとか勉強になる。たまに、女性だけのお客さんも来られるわけだが、これがまたそれなりに輪をかけるほどすごい。注文にはないものを注文したり、膝を立てたりと、下肝を抜かれることが、しばしば起こる、バイトについては、これくらいにしておこう。次は、ある芸能人のガン告白について考えてみる。自分もTVで少し見たが、I氏の記者会見は、毅然たる態度で見る人、聞く人を引き込む所があったし、本当にすばらしい人物だと思った。が、自分は少し人間がひねくれているのが、I氏はTVで告白し、闘う決意をうえつけるといい、担当医も世界でも有数の人だという。しかし、自分を含めた普通の一般人が「ガン」という病気にいかかって、TVで告白もできず、地方の無名な医師が手術をしてくれるのである。これのどこが、人間平等なのか有名な人物、お金のある人だけが、優秀な病院に入れ、優秀な医師が付く。これは、仕方のないことかもしれないが、考えてしまう。今回は、このへんで書くことをやめたいと思う。

今更だけど考えてしまった文

大学に入学、書道部に入部して三年目。実に早いものである(ついでこの前入部して、一年生はタカラなんて言われてウキウキしていたのに・・・)。三年目に入る時、何か非常に大きな壁を、又違和感を感じた。すごく大袈裟だが、事実である。やはり、大学生活の折り返し地点を過ぎたせいだろうか。それとも、うーん。あまりにも時が流れるのが早いので、それに流れる自分自身に少々焦りを感じる今日この頃、なにかが、背後から迫ってくる感じがする。無論、何かに取り付かれているワケでもなく、後ろめたい事も・・・多分ない。と思うが・・・

焦る分、先を読みすぎて、今を大切に作る気持ち、自分を見詰める事、どちらも減ったような気がする。このことで、越えるべき山を、妙に器用に越えた振りをして先に進んできた事もある。だから、前、もつと不器用で、こんな風じゃなかったのに・・・と思う事が、ある。でも、「あの頃は良かった」だの「あの頃に帰りたい」だの、

言いたくはない。では、どうすればいいのか？今すぐに、答えを探し出すのは難しいけれど、自分なりに考えて、私のカラーを出しつつ、かつ、失敗を繰り返しつつ、今の私の石ころの人生を磨いて、輝くものになりたい。

(おわりに)

こんな支離滅裂な文章を読んで頂いて有り難うございました。また、この様な事を考える機会を与えてくれる荒鷲は、本当にすごいと今更ですけど、感じました。

発行にあたった方、本当にお疲れ様でした。

### 自由投稿

一年 川原 和人

私の生活にとってかかせないもの、それはプロレスである。M先輩は御ぞん知だが、私の寮の部屋には道路にはってあったのをとってきたのや、本についていたポスターがたくさんはってある。部屋チェックの時に寮監長に文句を言われたほどである。

さて、本題に入るとする。最近私が一番不思議に思い、又げせないのは書道部内に全日ファンが多数をしめ新日ファンが私とK先輩しかないことである。これは猪木信者の私としてはその人たちがどんな思考回路をしているのだろうかと首をかしげてしまう。(たぶんこれ読んだあとダブルO君に虐められると思う)ましてやU系の団体のファンの人たち(とくに前田、高田。ただし山崎は別)とは口もききたくない。

私になぜ全日がきらいかと言うと、一番大きな要因は田上明である。(二番目は小橋)あんなやつメインが勤まるなんて高が知れた団体です。その田上が川田と組んで世界タッグのチャンピオンになるなんてお笑いである。これは小橋にもいえることである。

これからプロレスファンになる人、全日ファンから新日ファンにのりかえたいと思う人に私が勧める新日ファンになるために入門ビデオを3本紹介したいと思う。

- 藤波vs前田(昭和61年 6月12日 大阪)
- 猪木vs藤波(昭和63年 8月8日 横浜)
- 蝶野vs武藤(平成3年 8月11日 両国)

この3つの試合は私が感動のあまりに涙を流した好試合ばかりである。これらを見ればきつと全日ファンなんてやめることができると思う。今これを書く前も新日のテレビを見たがやっぱり最高によかった。(バリバリッスよ)

最後にもう一度言わせてもらいたい。やっぱりプロレスは新日。歌手はピカソである。

### 無題

四年 小田 桂子

考えてみると、私が「荒鷲」に寄せる原稿が書けるのも、これが最後。頭を悩ませることもなくなるけれど、少し淋しいもの。毎回、伝えたいことが、なかなか表現できなくて困惑してしまっけれど、大学ではあまり、こういった機会がないもので、結構、貴重なものかもしれない。

さて、ここで少し私について考えてみたい。今この原稿のテーマについて頭をひねっていた時も、自分の姿を垣間見してしまう。ちょっと凝った文章を書きたいなんてがんばってしまった。何かに載っていたけれど、「上手に書こうと思わずに、自分は文章が下手なんだと思うことで、かえって気楽に書ける」とあった。なるほど、その通りかもしれない。肩の力を抜くことは、大切だ。

自然体というものに憧れる。どこか透明で、軽やかなイメージだ。正に、肩の力を抜いた、飾らない、なのになにに輝いている、そんな人のことだと思ふ。そして、自分に正直だけれど、決してわがままでなく、素直に生きている。そんな人を思い浮かべる。私もいつか、そうなりたい。少しづつでいいと思う。

私はとても不器用だ。自分でもつくづく思うし、人にも言われる。でも、最近そこが何となく気に入っている。無理に器用なふりをすることなんかない。みんな、とっくに知っていることかもしれないけれど、私には、今頃になって、気付くことがたくさんある。大学生活が、残り少なくなってきたというのに。やはり、そこが私の不器用なところなのだろうか。

ところで、今なんとなく述べてきたけれど、本当に思いつくままだったの、うまくまとめられないが、ただ漠然とでも、何か伝わっ

ていると嬉しい。

## コントロール

三年 野口 益記

どれだけのことを、人は、自分のことについてコントロールすることができようか？最近ふつと考えてみた。

今は、書道部の部員、それから役員をやっている。だから、役員のことばかりにとらわれたりするものもある。それではいけないと思ひ、コントロールしなければと感じ、もつともっと大きな人物にならなくては・・・と考えるときもある。

もともと、自分をコントロールすることは、簡単なようで実は難しい事であるかもしれない。日ごろ生活している中で、様々なことを、自分自身でコントロールしていると思う。分かっている部分のコントロール。分からない部分のコントロール。この分かっている部分のコントロール。分らない部分のコントロール。この分かっている部分のコントロール。自分自身でコントロールしてこそ、一つの自分の成長でもある。自分も、完璧ではないので、強くは言えないことであるが、とても大切なことであると、つくづく感じてしまう。

また、分かっているコントロールできないときもある。しかし、これは、直そうと思えば、コントロールすることができてしまうことだ。はつきり言って、自分次第だと言えはそうかもしれないが、やはりそれでは納得しがたい。それは自分が思うに経験していくうえで、それらをコントロールしたいものだ。そのためには、様々なことに、挑戦していくべきだと感じる。しかし、それを行う上で自分に余裕が必要である。慎重になるのもよいが、一度、考えたり思ったりすることを、試してみようか？。そうすれば、自分をコントロールすることができるようになるかもしれない。

あなたは、自分をコントロールできているかな？他人ばかり見て自分をコントロールできていないのでは？

## 私の日常生活

一年 内田 理恵

私の一日は長い。朝五時に始まる。それから六時に家を出て麻舎

に着くのは七時二十分頃。文章にするとたった四十文字で収まってしまうのに、これがなかなか大変である。電車は始発だというのに絶対に座れない。考えてみればそれだけ多くの人達が朝から活動しているということになる。それも新宮駅で既にたくさんの方が乗っているのだから、その人達はかなり北から下ってきているのである。それを考えると私はまだまだ甘いかもしれない。

麻舎に着くと、着替えて練習する。これが私の一日の最初の楽しみである。馬に乗るのはすごく面白い。特に馬に乗って走っている時はとても気持ちがいい。障害が飛べるようになるのが待ち遠しい。でも馬はすごくかわいいので見ていただけでも幸せな気分になれる。楽しい練習の後には、授業が私を待っている。毎日一限があるので忙しい。授業は九十分間もある。これがひたすら長く感じる。仏語学科なのに、一番重要なフランス語が分からなくなりかけている。かなりやばいと思ひながらも日が経っていく。

授業の空き時間と授業の終わった後は部室に行く。これも私の一日の大きな楽しみである。いろんな人と会っていろんな話をするのが大好きで、その上、書道部の部員は先輩・同輩みんないい人だから申し分けない。練習もしつかりできる。こんないい環境の中にいる私は幸せ者だと思ひつくづく思う。だから私は無事にここまでたどり着いたのであって、皆がいなかったら私の生活は全く違うものになっていただろう。

いろんな事を考えながら一日が終わる。その時間だけが決まっていな。これを四年間続けることを考えるとぞつとするな。

1/365日

三年 真庭 陽子

朝、目覚めたら、外で猫が鳴いていた。腕にはめたままの時計を見ると8時7分前、だった。起き出して、パンをトースターにいれた。すぐ焦げるから、タイマーは2にして、顔を洗った。パンが焼けた。コップと牛乳を両手に、パンはくわえて部屋に戻った。バター塗りながら、テレビつけた。チャンネル変えながら、メールシロップ、パンの上を一周させる。コップに牛乳注ぐ。飲む。

時計を見る。8時30分になってきた。カーテン開けると、嘘みたいに晴れていた。自転車で学校行く事

私の一日は長い。朝五時に始まる。それから六時に家を出て庵舎

に決めた。

パンくず払って、コップやバターを片付けた。手を洗い、鏡の前に座って櫛を掴むと、もつれてからまった髪と格闘する。結んだ時計を見た。9時2分。

結んだ髪が気に入らないから、ほどいた。再度、櫛を片手に、格闘する。今度はリボンも結んだ。敷きつ放しの布団をたたむ。

時計を見た。9時18分。またテレビの前に座り、画面を眺める。

ふと気付いて時計を見る。今度は10時5分。

慌てて歯ブラシをくわえ、バックに教科書詰め込む。カーテン閉める。うがいする。服に着替え、鏡の前で、どうにか化粧する。時計を見る。10時21分。

家と自転車の鍵、取り出す。カバンを引つ掴み、靴を履く、履きかえて、止めて、部屋に戻る。テレビのスイッチをOFFにする。

ガスの元栓、確かめて、今度はちゃんと、靴を履いて、ドアを開けて、閉める。鍵も掛ける。閉まっているか、確かめる。

階段掛け降りながら、時計を見る。駄目押しの10時28分。自転車で荷物と鍵を突っ込んで、蹴っ飛ばしながら飛び乗った。

夜、半分眠りながら布団にもぐり込んだ時、また猫が鳴いていた。

書道部に入って

一年 武辺 和子

私が書道部に入部したのは五月の終わり。勧誘週間にいろいろなサークルの説明会にいたりしたが、いまいかなんかちがうと思つて、何のサークルも入らないまま教週間が過ぎた。その間、何かのサークルに入りたいけれど、決まらずにいた時、友達が「書道部に入りたい。」といったことではじまった。

私は、小学校から高校まで習字を習っていて書道教室に通おうかな。と思つていたところだったので、「私もいっしょに入る。」ということになって、部室にいった。しかし、学而会館は工事中で何もなかった。それから数日後、また部室に行ったら先輩がいたので

カーテン開けると、嘘みたいに暗れていた。自転車で学校行く事

(勧誘はもう終わったなら仕方ない)と不安に思いながら入った。二時間くらい話して入部した。その日から今まで一カ月くらいだった。この一カ月のいろいろなことがあった。まず思つたのは、習字と書道がちがうこと。それと筆のにぎり方がちがうこと。少しづつ慣れてきたけど、まだへんなにぎり方をしていると。あと、先輩、同輩がみんなやさしいこと。そしてみんな書道がうまいこと。などです。

この一カ月はほんとに早く過ぎたように思う。なにかも新鮮なだたし、大学生になった気がした。そして何もしていない時に比べて毎日が充実した日々になったと思う。

最後に、これからの抱負としては、練習を休まずに出て、先輩たちみたいにならなうこと。と、今までいやなことやきついことから逃げてきたので、これからは何事にも前向きな姿勢でがんばること。と、毎日充実した日々を送りたい。ということでした。

とりあえず何か書こう

二年 池田 留理子

今日は十二月九日・・になったばかりの真夜中である。荒鷺の原稿の✓切は確か六月マデだったのではなかつただろうか?一時はこの原稿を聞に葬ろうかと考えもしたが、第三十三代役員さん達の検閲は厳しかった。流石に黒板に名前を書かれてしまったては書かざるえない。ということ、とりあえず何か書いておこうと思う。

大学に入學してから一年半が過ぎた。今が一番充実している時期ではないかと思う。去年の荒鷺や写真などを見てみると、やっぱり今と全然違う。思えば一年の前期の頃などは授業にしろ、部活にしろ、楽しいのか楽しくないのか、興味あることなのか、ないことなのかよく分からなかつた。何だかよく分からないまま時だけが過ぎていってしまったような気がする。あの頃は自分たちはとても受け身だった。話す人も限られていたし、行動範囲も限られていた。そういうことがいけない、と思つた訳ではないのだけど、だんだん自分が積極的になつてきたような気がする。いつ頃なのか、とは自分ではよく分からないけど。とりあえずいい事だと思ふ。人格的に成長してきたのか・・とは言い切れないけど、自分にとってプラス

になることがたくさん増えてきたのではないかと思う。自分で何を書いているのか分からなくなってきたのでこの辺にしたい。ところで皆様は文章を書くのは好きですか？私はキライです。文才もないし、漢字も知らないし・・・頭の軽さがバレてしまう。だから去年の荒唐の自分の書いたのは今でもとても読めません。あ、あなんでもこんなことを書いてしまったらどうと後悔の嵐が・・・。

おわり

微かに見えた夢大陸

三年 山本 哲治

一九九四年W杯米国大会のアジア最終予選最終日は、十月二十八日、カタールで行われた。日本はこのイラク戦に勝てば自力で予選突破できる。これでアメリカへ行けるぞ。そう思うと、TVの前だが気持ちには灼熱の地ドーハで、テションが上がってきた(多少、お酒のせいでもある)。そして夢実現へのホイッスルがグラウンドに鳴り響いた。前半6分中山のセントリングを長谷川が左足でシュート。パーに当たったリバウンドをカズが頭で押し込んで先制のゴールをゲット!後半25分、ラモスのスルーパスを中山が決めて勝ち越し、思わず「ゴ(一息ためて)ウォール」と叫んでしまった。ついに時計の針は45分を過ぎ、ロスタイムを残すのみとなった。ここから思わぬどんでん返しが出ていた。そして悪夢の10秒、まさかのイラクの同点ゴールが決まる。オーマイ、ガッド!  
ワールドカップ初出場の夢は、もろくも崩れ去った。それも、たった10秒で。ゴールネットが揺れた瞬間、だれもが言葉を失った。カズが、ラモスが、柱谷が、井原が・・・、いつもの陽気な笑顔を忘れ、ただ呆然とするばかりだった。グラウンドに座り込んだ選手たちに手を貸して助け起こすオフト監督も、日本の選手の前で初めて涙を見せた。

こうしてW杯予選は終わった。アメリカの大地をまさに踏みしめようとしたその瞬間、大陸が逃げてしまったような信じられない残酷な結末だった。悪夢か運命か勝利の女神に見放されたのか、いやオフト監督が言っていたように、「負けた、これがサッカーだ」というものなのだろう。しかし何も、これでサッカー人生が終わったわけでもない。そして、アメリカだけがワールドカップではない。

今回ダメだったならば、98年のフランスを目指せばいい。その時は僕もフランスで応援したい。フランスへ、フランスへ行こう。

大学生活

川畑 哉果

この四月から、あこがれの大学生活と共に夢にまで見た一人暮らしが始まった。確かに一人暮らしは、自由だし、楽しい。でも、大変だなと思うことも少しあることが分かった。私が今、苦勞していることが二つある。一つは料理が苦手なことだ。一人暮らしが決定して以来、約一カ月間、実家で料理の特訓をしてきたにもかかわらず、唯一まとも？に作れるのは「チャーハン」ぐらいだ。これからは、ちょっとレベルアップして「肉じゃが」に挑戦しようかなと思っているところです。もう一つは、朝がすぐく弱いことだ。ひどい時は昼まで寝過ごしてしまって、一、二限の授業に出ないこととがしばしばある。これじゃいけないと思って、最近では友達に電話で起こしてもらっている。まあ、この二つが主に苦勞していることだけども、よく考えてみると、たいしたことないように思える。でも、私にとっては、大問題なのだ。

これを除けば、毎日が本当に楽しい。特に書道部に入ってから約三カ月間は毎日が充実していて、一日がすごく短く感じる。練習だけでなく、いろんな行事があったり、先輩にご飯をおごってもらったり、車であちこち連れて行ってもらったりと、一人っ子の私にとっては、先輩たちがお兄さん、お姉さんのように感じる。また、高校時代からあこがれていた「コンパ」に参加できた時は、大学生なんだなあと思う。うれしかった。

まだまだ大学生活は始まったばかりだけど、これからの四年間。毎日楽しくいろいろがんばって行こうと思う。これからもよろしくお願ひします。

彼の悩みごと

三年 中江 寛行

彼は大変困っている。

彼の名前は『地球』。彼は原因不明の病気に苦しんでいる。彼は苦しさのあまり涙を流している。しかしその涙ですら、彼の涙を痛みつける程強い酸を帯びているのだから、彼の症状はかなりひどい様である。

彼は病院へ行くことになった。彼の体内が隅々まで細かく検査される。彼の体内はその大部分を病魔にむしばまれていたことが分かった。大気の温暖化、オゾン層の破壊、河川・海洋の水質汚濁、森林の乱伐、砂漠化、放射能汚染・・・等彼の病名は数えきれない程ありそのどれをとっても彼の生命を奪いかねない大病ばかりである。また、これらの症状は、『人間』というウイルスの増殖によって引き起こされることが判明した。このままウイルスが増えつづければ、彼の生命力は確実に失われていく・・・。

彼は病魔と戦う決心をする。彼は持てる力のすべてを振り絞ってウイルスと戦った。地震、津波、台風、火山の噴火・・・等。しかしウイルスは、その知能の高さを武器に彼の攻撃を統々と打ち破っていく。彼は絶望感にかられた。「ああ、私の生命もここまじか」。そんな時、彼に一つの朗報が入った。ウイルスを完全に死滅させることができ新しいワクチンが開発されたのだ。早速彼は病院へ行った。ワクチンには『AIDS』ワクチンを使えば彼は確実に助かる。ワクチンを注射した。彼の体内からウイルスがみるみるうちに消えさり彼はついに健康を取り戻した。そう、彼はウイルスに勝つたのだ。もはや彼の命が脅かされる事は永遠にないことであろう。これはもちろん・・・フィクションである。

入学して

一年 小川 貴史

四月。福岡大学へわずかではあるが希望に胸ふくらませながら入

学した。右を見ても左を見ても自分が今、どこにいるもか分からな  
い。しかも二万人以上の学生がいて人間の多さに驚き、学内のあま  
りにも広い敷地のために歩き疲れたものだった。

そんな中、友達と色んなサークルを実際に見に行ったり、話を聞  
いたりしたわけであるが、友達と自分と一緒に入ろうと思っていた  
ところ、互い意見が合わず一緒に入るのをやめた。その時、ふと頭  
の中に浮かんだのがバドミントンと書道、理系の自分にとって体育  
系のサークルに入ることは授業時間数や体力などを考えたとでも  
出来そうになかった。そこで自ら書道部の部室へ訪ねて行ったのだ  
た。

自分は小学生の頃からずっと書道はやっていて、書道に対する愛  
着みたいなものは持ち続けていた。筆を持つのも受験から開放され  
たばかりで久しぶりで、初めて書いたときは少し緊張した。でもそ  
の時の他の先輩方が書かれていたその姿は自分よりずっと緊張して  
書かれていたように思えた。正直に言うとその時、自分はこのサー  
クルに入ったことは失敗だったのではと思っていた。自分はこの緊張  
状態が耐えられるのか不安だったからだ。でも練習以外ではあの緊張  
はどこへ行ったのかと思わせるくらいみんな楽しんで見えて、自  
分自身でもその瞬間やる気になれた。

あれからも二カ月以上の月日が過ぎた。最近では同輩・先輩と  
もに気軽に接することができるようになった。書道以外の場でも、  
特に同輩などは一緒に過ごす時間も多くなってきた。このサークル  
の中で活動をしたりが一番自分にとっての楽しみとなつて  
いる。これからも楽しくまたまじめにある程度は緊張もし、書技の  
みならず色んな面で向上させたい。

人生、苦もあれば楽もあるさ

三年 脇田 昇英

人生において、おそらく悩む事が多いと思う。

私は悩んで人は大きくなるから、大いに悩めという事をよく耳に  
するが悩む事自体には何らの意味も価値もないのではないだろうか。  
もしも意味や価値があるとすれば、それは、悩む事で自分を見つめ  
る事が出来るかということではないだろうか。飛ぶことを忘れた鳥



が空を飛べない様に、悩んで、考える事をしなくなった者は、おそらく、悩んで自分なりの答えを見つけた者の半分も人生を充実できないだろう。

五十人の人がいれば、五十通りの物事の考え方があり、その分五十の悩み事もあるわけである。だから、他人の考えを学ぶ事も大切ではあるけれども、自分なりの考えをもつ事がより大切であり、その考えが真に的を得ているかどうかは、言葉よりも行動で示すほかないのである。

自分はこの三年間、教えきれないほどの悩みをいつもかかえていた様に思う。そして、先革方や同輩、後輩を通じて、自分にはない考え方を多少なりとも身につける事が出来た事は、今の自分の宝と言えるものかもしれない。そう言えるほどのものを自分に与えてくれるものが、私の周りには多くあったと思う。そういう機会やチャンスはいつも目の前に転がっているものである。それに気づくかどうか、手にすることができるかは、自分次第であると思う。そして、それを活かせる人が人生を充実できる人ではないだろうか。

人の中には、後悔したくないからやらない(やめる)と口にする人がいるけれども、後悔したくないければそうしないようにやればよいのである。

### 最近の思った事

一年 竹下 裕子

世の中には日々いろいろなニュースが飛びかっている。腹立たしいのもあれば、感動して泣いてしまったものもあるが、それらについて思った事を思ったまま簡単に書いてみようと思う。

まずは保鯨か捕鯨かの問題。日本ではかなり昔から鯨の世話になっ  
ていて、数も確かにすごいだろうが、捕った鯨は無駄なくすべてを  
使ったという。それにひきかえ、アメリカは昔、鯨を取っても使う  
のはほんの一部で、あとは全部棄てていた。今さらそんな国に大き  
な顔して捕るなど言われたって、おとなしくハイと言えろわけがな  
い。第一、とりわけ鯨の数だけこだわるのがおかしい。頭がいい、  
教が少ないという理由はあるが、だったら他の動物達はどうなる。  
自分達が鯨を食べないからって、それならもともと日本にはなかつ  
た牛を食べる文化を持ってきたあなた達は何なんだ。結局のところ

私はある程度の捕鯨はあっていいと思う。私だって動物は好きだ  
から自然なまま自由に生かしたい。でもそれなりの食物連鎖だつて  
必要だ。増えすぎたために他の生物に影響が及ぶ事だつてあるかも  
しれない。一番言いたいのは、毛皮や剥製など生きたために本当に  
必要ではない物が目的の殺生をなくすことが、生態系を崩さない最  
も適当な事である。

次は金丸信。佐川急使事件のほとぼりがさめかかっていた頃の脱  
税事件だったので、よくぞ警察調べあげてくれたと思つた。そ  
れにしても金、タテ社会という政界のドス黒さを一気に打ち出した  
事件だつた。だいたい税金が足りないと行って消費税なんかを作つ  
たりした当の本人達が、平然とごまかしていたのには腹が立つ。私  
には政治家に金まみれという印象がついてしまった。永田町には、  
すばらしい政治家が全く見えなくなるくらいドス黒い霧がかつ  
ている。

### Movement is a must for all.

四年 中山 美津子

Everything in this universe is moving.  
The hours, day, human beings, stars, planets, nebula all are  
on the move.  
Movement is a must for all, there is no scope for its  
cessation. The path of movement is not always smooth  
or strewn with flowers nor is it always beset with thorns  
or encumbered with violent clashes.  
According to the nature of the path human beings will  
have to prepare themselves and move courageously.  
In that movement alone lies the very essence of life.  
So keep moving, enlighten humanity with criticism and  
make your existence meaningful and efficient.  
Move on, move on.  
P, R, SARKAR

「分岐点―それぞれ道」

三年 森山 清二

人生には色々な分岐点があります。自分もこれまで大きな分岐点、小さな分岐点と色々な分岐点に立って来ました。その中の大きな分岐点とはというと・・・

・高校受験―自分で自分の進路を決めるという大きな分岐点でした。この時第一志望の公立高校へ落ちるとは、かなりのショックでした。・大学受験―二度目の大きな分岐点です。今度こそ、という感じでしたが一度ならず二度までも、という感じでした。浪人も考えましたが結局福大へ進むことにしました。

と、いう感じで大きな分岐点というと、やはり二度の受験が一番頭に浮かびます。「第一志望通りにはいかない」というジレンクスみたいなものをつくってしまっただと思います。

でも、不思議なことに、実際にその「道」に入ってしまったら、そんなことはどうでもいいというか、むしろ「良い道を選んだ」と思える様になるんです。これが。高校の時は色々な友人と知り合えたとし、北九州で一番（と自分は思う）の夜景を見たしと楽しいことが多かったし、今も大学に入って初めてサークルというものに入っで、色々な活動をして、一年生から役員をやって、つらい時、泣きたい時もあったけど、何もかもが新鮮で、充実した時をすごせていると思います。そんなこんなしている内に大学に落ちたショックなんか消えてしまい、むしろ「福大に来て良かった」と思える様になりました。

何故か、と聞かれても自分にははっきりした答えは出せないけど、一つ思うのは、どこにでも楽しみとかいうものはあるんだな、という事です。確かに何にでも向き不向きはあるけれど、自分の進む道が決まった以上その中で自分なりの楽しさを見つけていくことも大切なことだと思います。

まあ、自分はこのままでいくと「二度あることは三度ある」という言葉もあるし、今度は就職で・・・と少し心配になるけれど、自分が後々納得できる様な就職、仕事、恋愛、結婚をして、充実した人生を送りたいと思います。

最後に自分の好きな詩の一節を紹介します。

他人の道に心をうばわれ、思案にくれて立ちすくんでいても道はすこしもひらけない

道をひらくためには、まず歩まねばならぬ  
それがたとえ、遠い道のように思えても  
休まず歩む姿からは、必ず新たな道がひらけてくる  
深い喜びも生まれてくる

(松下 幸之助)

「県展入選!!」

三年 安武 淳

この原稿を書くのは何とも自慢しているようで照れくさいけど、まあ僕の滅多にない自慢話なので得意気に書きたいと思う。あれは確か今年の夏は冷夏で過ごしやすく、油山正覚寺の夜の景色は最高のナイトスポット、そんな環境の中で僕らは県展入選を目指す十名は、練習に励んでいた。周りの皆は「呉昌碩のうけがイイ」と言うことで県展サイズの紙の前に九行から十一行書いていた。あさつばい僕はとてもじゃないが書けず「楊硯山」を二、三枚程書いて満足していた。夜、赤木先生に「なかなか」と言われAとしてとられた。調子に乗りもう一枚書くとまたAを頂いた。これはと思いついて出品を考えていなかった僕は、イチカパイか出品してみた。そして、合宿から一カ月後夏季合宿も終わりホッとしていた頃、県展に出品していた事など忘却のあなたへ消えていた。そんな中昨年の県展では入賞を果たした山本君から電話で、な・なんと僕が県展に入選したという朗報ではありませんか。他の皆は快挙などと失礼な事を言うけど入選は入選、努力は実るとか言ってみたりして・・・



「大航海時代」

一年 今西 衛

ちょうど一年前がコロンブス・アメリカ到達五百年ということでも西諸国では数々のイベントが開催された。これと重なるように、TVゲームで『大航海時代』というシュミレーションゲームが発売された。これはかなり面白くて一年半たった今日でも暇な時には遊んでいる。それで、このゲームに触発されて、大航海時代に関する色んな本を読んでみた。中でも一番興味を持ったのは英海軍のドレック提督であった。今ここに彼に関する資料がなく、はっきりしたことは言えないが、彼は元海賊であったらしい。その後、英国より彼に世界周航の命令が下り、一五七七年から三年間、各寄港先で残虐なことをしながら世界一周を果たしたのである。そして、一五八八年、英と西の海上覇権を賭けた戦いに参戦し、スペイン無敵艦隊を大破させた。これが、彼に関する大まかな生涯であるが、これから分かるように、海賊がヒーローになることが可能な時代であったのである。彼に限らず、一獲千金を夢見て、未知の世界へ船を出した勇気のある冒険者達もまた、その姿は輝やかんばかりのものであったであろう。

人生を一つの航海と例えるならば、今の大学生活はそれこそ未知の世界への船出であろう。私は彼らほどの冒険者ではないけれども、まずは船出となるこの大学四年間の生活を有意義に過ごしたいものである。

時代について

二年 牧本 朋子

時間的な規制はすべての事柄に作用するが、それらが語られる時はいつも過去形である。

即ち、どんな時代も、それを「時代」という区分で表すのはその

時代が過去のものとして扱われることによってしか、存在しえないのだ。

それなのに、私達は、「現代は・・・の時代だ」という言い方をしている。そうして、自分の足元を照らす幻のともし火を見出す。諦念から。或いは希望から。この火は限りなくあやういが、少なくとも自分なりに何かを考える視点を定めてくれる。

私達は自分の人生という狭い柵の中で生きるしかない。そのわずかな時の中でも、価値観はうつろい、観念はゆがめられる。戸惑い、悩み苦しんで何かを得、何かを失うことをくり返す。

孤独な作業を通して、答えは見つかるだろう。正しいかそうでないかは別として。

だから、私は憶病ながらも感性の根をなるべく広く伸ばして、触れるものを吸収して成長するものになりたい。ささやかな光を次に来る誰かに渡せるようになりたい。

いつか逆らえぬ運命が降りかかるその時まで。

「時代」

三年 松元 恵美

「時代」というテーマがあたってしまった。はっきり言って、何を書けばいいのだろうと思ってしまった。「時代」という言葉から連想するもので、ピンときたのは井上陽水の「少年時代」・・・。

振り返れば（私は少年じゃなかったけど）私は、本当に子供らしい子供時代を送ったような気がする。（今も子供じゃねーかと言はれれば反論できないけど）いわゆる、食う、寝る、遊ぶを当然の事としてやっていた。

小学校4年生の頃までは、宿題なんてなかったから、「ただいまー」って玄関に入って、部屋にランドセル置いてすぐに外に遊びに行っていた。夏休みだって毎日遊んでいた。私の家から海までは歩いて10分だった。水着を着て、うきわをつけて、水中メガネ持って、ビームサンダルはいて、ベタベタ走って泳ぎに行っていた。毎日行ってたから、貸しボートのお兄ちゃんと仲良くなって、無料で借りて乗っていた。ただ、夕陽の光がキラキラと波に映える時刻しか借り

れなかつたんだけど。そんなふうだったから「夏休みの友」なんて29日頃から焦ってやってた。初めにやっつけばよかったっていつも思いながら……。

私の両親は、学校の勉強についていければ小学生の頃は遊んでいいという人達だったから、「塾」なんて言葉聞いたこともなかった。だから、夜、バスに乗って、小学生が塾から帰るのを見る時があるけど、とても不思議な気がする。たぶん自分が生まれてから21年間学習塾というものに通った事がないからだろうな。熟々、今の小学生じゃなくて良かったと思う。

今の私を培ってくれたのが、この頃だとしたら、私は自分の「子供時代」に感謝したい。色々な場面に遭遇し、驚き、悲しみ、笑い、色々なことを乗り越えたあの頃を忘れずに生きていきたいと思う。懐かしがるのではなく。

猫の時代―猫になるすすめ―

一年 高村 裕子

「時代」というとすぐに思いつくのは「猫」である……。  
私はずいっと悩んできました。猫と暮らし始めてから十三年、保育園の年長さんの時、家の裏のどぶに捨てられていた子猫をひろったのが始まりで、それから我が家に猫が絶えた事はありません。(今は一人暮らしで、猫との同棲も4年間はあらずですが。)なのに、猫の気持ちがあったく分らないのです。猫はどうして隣の椅子が空いているのに、私が勉強している教科書やノートの上に座るのでしよう。キャット・フードは残すくせに、どうして夕食の魚をしつこく狙いにくるのでしょうか。夕食ぐらいゆつくり落ちて着いて食べたいのに。こんな事を言っていると、飼主に似たとか、しつけが悪かったからとか言われそうですが、結局たどりついた結果は、猫の気持ちを分かろうなんて無駄な努力はしないことだということです。そして、私が猫から学んだ事は、自分勝手に生きて、それでも許されてしまうという方法です。もしかして、これをマスターすれば、人生が変わるかもしれないよ。  
毛皮の手入れにはたっぷり時間をかける。身だしなみは大切です

よね。遅刻しても服に迷いましょう。

おなか为空いたら食べることを。ミルクはたっぷり飲んで、コレステロールなんか気にしてはいけません。

キッチンでは流し台に座りましょう。ちょっとは権威を示すことも大切。

蝶々を追っかける。書類はみんなビリビリにする。いちかばちかやってみる。みっともないことはすぐ忘れて。過去にこだわらない。呼ばれるたびに、行かなくていい。恥ずかしがらずに見つめること。甘えてみることに。本能に従うこと。無条件に愛すること。

そこにいるだけで、誰かをいい気持ちにできるようなこと。あったかいベットをひとつ持っていること。愛されること。夢を見ることが。これであなとも、どんなわがままな恋人とも、自分勝手な友人とも、幸福に暮らしてゆけるでしょう。

「豊かな時代」だからこそ……

四年 大倉 隆雄

同じ学年の同志で会話していて、「自分達と下の学年では、時代が違えるかなあ。」と年寄りじみたことを言うことがある。これは、自分達が大学に入って来た時に、口々に言っていたことである。確かに違うのかもしれない。というものの、例えば、福大の偏差値も自分達が試験を受けた頃よりもだいぶ上がり、受験生人口の多い厳しい中で勝ち抜いて入ってきている。また以前のように安いアパートに住む人もいるが、値段の高いマンションのように安いアパートに住む人も増えている。ほしいと思うものがあれば、何であれお金を出せば買える。しかし、こうしたお金で買えないものを、この大学の四年間で学んでほしいと思う。

時代に適した考えをしたり、行動することは、時代に則していくのに必要なことだが、何事においても根本にある大切なことだけは忘れないでほしい。ほんの一例ではあるが、例えば、これまで三十年以上も続いてきた書道部の良さ、また、各行事のもつ意義等である。

その今を生きる時代だけを見つめずに、その前の時代はどうであつたか、また、これからの時代はどうあるべきなのか、ということを常に考へ行動していくことは大切なことだと思ふ。

「この先は、先のことだから知らない。」というような考えでは、その後、結末としては、破滅しかないように思われる。そうならないために、日頃から、今の時代だけを見つめていかないようになつていきたいと思います。また、これを読んで頂いた人にも、少しでもそういう気持ちが出てもらえれば幸せです。

## 「時代」

二年 古瀬 徳明

「時代」何かとても重みのある言葉である。今、我々は、二十世紀も終わりに近づこうとしている世紀末に生きているわけだが、私は『時代』という言葉に対して申し分けないように思ふ。人類が誕生して、今まで歴史に残るような大事件から小さい出来事に至るまで色々なことがあつたが、どの時代も今のようないやらしい時代ではなかつたのではないだろうか。

「時代」とは、一つの節目であり、ある時代から新時代への転換期でもある。それなのに、このような状態でよいのだろうか。世界中の人がもう少し自分の周りを見渡し、自分が今、何をすべきか、これからどうやっていかなければならないのかと考えるようにならない限り、このままでは新しい時代を気持ちよく迎へられない。何事もきちんとやり終へ今現在ある問題を全部と言わないまでも、一つずつ解決していつて欲しいし、また自分も解決したい。

荷物を持ったままでは、気持ちよく走ることはできない。あと七年間、二十一世紀。すばらしい、よき時代を迎へるためにも、今頑張らなければいつ頑張るのだ。しっかりと地に足をつけ、悔いがない様に頑張りたものだ。

## 時代

四年 亀元 美奈子

母は、人生の先駆者として尊敬する人である。

私の価値観は、彼女によってつくられた。二重人格になるなど言つては「ジギルとハイド氏」の話を泣き出すまで聞かせてくれた。

人前で甘えるなど言つては玄関からなげとばされ体で教わつた。

兄妹げんかをするなど言つては、「あなたが先に一步引きなさい」と同じ目の位置で語つてくれた。

友達の前で物を欲しがれば「あなたが欲しいときはみんなも欲しいのよ」とがまんすること平等であることを教えてくれた。

日曜日の度にドーナツやフレンチドック、チョコバナナ、たこ焼きなど色々なおやつを作つてくれた。

よく間違つていたけど勉強も見てくれた。  
8月31日の夜泣きながら「工作の宿題が終わらない」といつては手伝つてくれた。

寝つくまで色々な童話を読んできかせてくれた。

ぬいぐるみの着がえもぬつてくれた。  
そして、彼女自身の本を読む姿、資格を取ろうと努力する姿を見せられた。

大学に入り一人暮らしを始める為に数々の援助をしてもらった。

これから、社会へとはじめて自分の判断と責任において生活することになる。

今まで育ててくれたことを感謝し、母の力とされるように。

これから、先も多くの指導をおおぐことにはなるだろうけれど、母の立場となつたとき、母が教えてくれたことを無償の愛をそそぐことができるように。

時代が流れ、世の常識が変化したとしても、本当に大切なものは受け継がれていくように。

努力を絶えず他人に迷惑をかけぬよう心がけた。



「夢」

二年 植元 豊

夢を見ない人はいない。人々は、それぞれ夢みる事がある。夢とは、将来、何になりたいとか、どうしたいか、(例えば、プロ野球やプロサッカーの選手になりたいとか)あるいは、眠っている時に、ある出来事をみたりする事(恐ろしい出来事を見たりとか)である。

人々は、夢見る事で生きていけるのだ。これは、前に述べた将来何になりたいのかである。人は、夢見る事で、将来の目標などを立てて、人生の道を作り、その道を歩いていくのである。しかし、ある時、ちょっとした事で、挫折したりするのである。けれども、その挫折から新しい夢を見て、新たな人生の道を見つけて、その道を歩いていくのである。

眠っている時の夢は、実に変なものである。例えば、恐ろしい夢を見たり、とんでもないような夢を見たりなどである。眠っている時、誰もが夢を見ている。夢を見ないという人は、印象が弱くて、忘れてしまつて覚えていないのである。

夢見る事は、人々にとつて、とても大切な事である。これまで書いてきたように、夢を見ない人は、絶対にいないのである。夢見て、嫌な気分になる事や、うれしくなる事、色々あるけれど、いつまでも、ずっと、夢見ていきたいものである。

夢

一年 久保 美奈子

夢とは・・・と考えてみても分からないので、とりあえず辞書を引いてみた。大修館書店の漢語林によると、A・眠っている間に見る心理現象、B・はかない現象。実在しないものを在るように思うこと。まぼろし。他にも暗い、あきらかではない。という意味もあつ

た。なるほどなあと思心しながら辞書を閉じた。これでは文章が読めないのであれこれと考えてみたら、一つ思い出す事があった。私が唯一覚えていた夢であり、そこに家族七人で住んでいた。ある日祖父が病気になる、父が赤いオープンカーで山の上の病院へつれていった。兄と私が車の後を追ひ、山道を登っていくと、後ろから天井の高い車がやって来た。その車にはサングラスをかけた男女、ペルシャ猫のような太った猫が二匹、三メートル程ある巨大な犬が一匹乗っていた。兄と私が猫にさわろうと近づくと、巨大な犬が兄を食べてしまったのだ。そして私の腕もかんだので、なんとか振り払って逃げ帰った。母と弟を連れて再びその場所へ行ってみると、兄は骨だけになっていた。女の人が、「この子(犬)はこの子達(猫)が大好きなのよ。ごめんさいね。」と言ひ残して車は再び山道を登って行った。私はその場で泣き出してしまった。

おわり。

夢

四年 坂井 喜久代

ついでこの間まで、夢は何かと聞かれても答えられなかった。自分の将来を選択しなければいけない崖ぶちに立たされても分からなかった。しかし六月に私は教育実習に行つた。初めて先生と呼ばれ、教壇の上に立ち汗かきながら五十分の授業を終えた。中には「がんばれ」と声をかけてくれる生徒や、私の眠い授業に耐え、うなずいてくれる生徒もいた。しかし心のどこかで、教職免許をとるだけで先生になる気はない」という私の甘い考えがあった。査定授業の前日に先生に呼ばれ、実際に授業をやらされたが、自分の研究不足とこの甘い考えのせいか非常におこられた。夜道、独りでトボトボと歩いて帰る時、自分の力なさに腹が立ちそしてくやくやくと涙がでた。

帰って、妹に生徒役をやらせて一生懸命に授業をねった。結果的には非常に緊張して黒板の字がまがっていたとは言われたが、多くの先生方は思ったより褒めて下さった。しかし私はどうしても満足できなかった。終わったあとこうすればよかったですかあつて、また授業をしたくてたまらなかつた。

二週間は本当に大変だつた。連絡事項一つ伝えるにしても苦勞した。また多くの進路相談をうけ困つた。同時に楽しかつた。ここでやめたくないと思つた。何を今さら言つてんだと言われるかもしれないけど教師になりたいと思つた。教育実習に行くまで漠然とあこがれていた教師というものがわからなかつた。私は教師にむいてないかも知れないけれど、これが私の夢。たぶん努力しただけではなるとかなる。そう信じて、多少遠回りでも自分の道を切り開いてゆこうと思ふ。

## 夢

二年 久保 壮

人が生きていくためには、自分の人生に対して目標を持つことが必要である。その目標というものが「夢」であると自分は考えています。何事にも目標が無いと、事が終わった後に満足感が得られないものである。故に、人は「夢」を持ち、自分の人生に満足しようとするのである。

今の世の中には、「夢」を持たない人が沢山いる。その人々の眼には輝きがなく、毎日を死人の様に生き、そんな人々が日々の無残なニュースを生産しているのである。

もつと世の中に夢あふれていれば、毎日の日々は、もつと輝いているはずである。夢とは、人が生きる為の明日への活力の源であると思ふ。

過去に対して後悔するのは、未来に対して壁を作る事である。常に前を見て、新しい道を開いていく事こそが進歩であり、伝統をただ守っていく事は退化である。この退化ばかりしている奴は、夢のない奴であると同時に単なる馬鹿である。それに比べ、失敗を恐れず新しい道に挑戦していく者こそが、夢を持つ者であり、人生を楽

しんでいる者であるといえる。

## 「夢」

一年 大久保 隆史

僕は困っている。とても困っている。なぜなら、僕はここ数年、受験戦争の波にのみこまれ、自分の「夢」について考えることがなかつたからだ。しかし、このままでは、これから先、何も書けなくなるので、ここで少し自分の「夢」について考えようと思ふ。もしばらくお待ち下さい。只今、「夢」を考えております。くお待たせいたしました。

今、僕は商学部に在籍している。そこで、「夢」の一つとして「公認会計士になる。」ということをおこす。では、なぜ公認会計士をあげたかという点、九州には公認会計士があまりいない、つまり珍しい職業であるらしいことと、目標は高くもとうということからである。

また、僕が一生をかけて成し遂げたいことは「現在、残っている鉄道をどん行で回り、出来ることなら各駅の切符を買う」ことである。僕は幼い頃から電車が好きで、その頃からこの夢をもっていた。あとくだらぬ夢としては、「宝くじ(グリーンジャンボ・ドリムジャンボ・サマージャンボ・年末ジャンボ)の四冠を達成をすることである。この夢が達成できたなら、先に述べた夢も達成できよう。

家を建てる時に「トイレと風呂に場所と金をかける。」というのも僕の夢の一つとしてあげておこす。

最後に、夢というより目標になると思ふが「いかにこの人生に於いて無感情及び無表情になりロボットのような冷静な判断力を失わずにいられるか」ということを追求、習得することである。つまり自分がどんな状況下におかれても自分を見失わないということ」をあげて本論を締めくくりたいと思ふ。

いよいよ私も来年から大学4年生になる。4年生といえは「就職活動」(院生になる方別として)が中心となった生活を強いられる。特に今年には就職難ということで、新聞やテレビの中でも、それに付いて多く報じられていた。来年はもっと厳しくなるらしいとも言われているけれど、まだ実際に就職活動(会社訪問など)をしたわけではないので、私にはその実感というものは無い。できることなら自分の希望する会社に入りたいけれど……

だから、希望職に就くということが今の目標で、最終的な夢は……あまりにも現実から離れているのでここには書けません。もし、どーしても私の秘めた夢を聞きたい方は、直接、私の所まで。この原稿の課題は「夢」だったけれど、結局、夢を書かないままに終わってしまいました。すみません。

「あなたの将来の夢は何ですか？」とある時突然尋ねられた。

「別にないです」と答えたが、実は自分には内なる夢がある。いや目標といったほうが正解であろう。

僕は20年間生きてきて多くの人と出会いそして学んできた。尊敬する人もたくさんいる。そういう人になりたいと思ひ、それを目標として励んで来た。これからも、そうするであろう。

結構前、本を読んでみると、「人生の達人」という言葉をみつけた。その意味は、「路傍のすみで咲く一輪の花に感動し、正座を見ては感嘆し、多に笑い、そして泣く。一日、一日を充実して送る人」である。

ここで僕の夢を述べよう。それは、何事にも積極的にとりくんでいく人生の達人になることである。尊敬する人から学んだ事を総合すると「積極性」という言葉にた

どりつく。積極性とは向上心であるといえると思う。向上心がつねに私の心の中にある限り、この目標に向かつて励んでいくであろう。夢というと、大多数の人は「○○になりたいたい」という職業のことをいう。それはそれでいいと思う。夢をもつことはいいことだ。しかしぼくは、今、職業は単なる人間の飾りにすぎないと考えている。以前のぼくもそうであったが人々は学歴、職業でよく他の人を判断する。何か人間の木質を遠い昔に忘れてきてしまっている様だ。大学に入学して2年間、実にみのりある日々を一日、一日送ってきた。楽しかった。そしてこれからのぼくの人生はもっともっと楽しいにちがいない。

僕は目標を就職しても、結婚しても、年若いでも、もちつづけるであろう。

今度誰かに夢は何ですかと聞かれたら自信をもって答えよう。「ぼくは人生の達人になりたい」

(おわり)

夢について書いてくれと原稿用紙を渡されても、最近自分の夢について考えることもなくなってしまうていて何を書いているかわからないが、とりあえず今まで二十年間生きてきて、それまでに考えた夢を列挙してみると、確か小学生の頃は野球選手やF1レーサー、中学・高校生の頃は社会科、特に日本史が好きだったこともあって社会科の教師、または考古学者になること、建築家になって都市空間をデザインするというか、道路や交通網を整備したり住宅街や娯楽施設を作ったりして自分の思うような都市を作ってみたいと夢みたこともあった。しかし、自分には物理や数学の才能がなくてあきらめてしまったが、まだ行政面からという手もあるが果たして……

教師になる夢は結構真剣に考えていたが、高校のときの先生が嫌だったのでそういう人たちと同じフィールドに立ちたくないと思つてやめてしまったが、今でも日本史関係の本はよく読む。特に明治



維新のころがおもしろい。その影響かもしれないが、ふと一三〇年程前に自分が存在していたら・・・と想像することがある。今から一三〇年程前はちょうど日本が開国して明治政府ができたころだ。今のうちに平和でもなく、汚職まみれの金権政治家たちとは違い、本当に日本を何とかしようという西郷や大久保、木戸、伊藤・・・など（知らない人は日本史を勉強して下さい）のような政治家たちと今後の日本について議論を交わしたりして共に活躍してみたいかと思う。こんなことを考えているのは、戦争も知らない平和ボケした現代の大学生の中では、日本史好きで少し刺激を求めている自分だけかもしれない・・・。

「ゆめ」

三年 工藤 大行

「ゆめ」、夜見る夢もあれば、「希望」、「就職」、「願望」など、将来の展望を指す意味に使われていることも多い。

さて、私自身のゆめはというと、タクシ一の運転手、コックさん、県庁、そして中学の頃教師を進められ、高校で真剣に考えるようになった。人と競争するのは嫌だし、部活も考えてみたいというのが主な理由である。大学に入ったのも、教職をとるのが目的であったし(?)、今は悪戦苦闘の毎日である。

さて、人はそうした自分のゆめを実現する為に努力をしている訳だが、中には、例えばスポーツ選手のように、自分のゆめだけでなく、人にゆめを与えている人もいる。ここで言うゆめとは、目標であると思うのだが、私も少なからず人のゆめ(目標)となるようになりた。教師というゆめ(就職)をとげて、部活の顧問(希望)をとげたら、「先生のような先生になりたい。」といったようなゆめ(目標)を与えることができるよう努力したい。

皆それぞれ長所がある。その長所をもっと活かして、自分のゆめを果たすこと、そして人にゆめを与えること(小さなことでも)のできる人になってほしい。「あの人の笑顔がいい。」「約束を守る人や。」「遅刻せんや。」「とか少なからず、「あっ、いいな。」「と他人にそうでありたいというゆめを与えることではないかな？

結局それだけ魅力ある人になってほしいと思う。最後に自分らしくない文章になってしまいい関係者各位にお詫びと、夢をひとつ。確か数年前の夢だが・・・平和を守る為、スパーヒーローに改造された私の前に悪の怪人があらわれた。正義の心がスパークした私は変身しようとしたが、変身ポーズがわからず、あれこれポーズをとったが、変身できず、さしあたり逃げたのである。その時私の寝顔は、みけんにシワがよっていたであろう。おわり

一週間

三年 島 幸輝

月曜日。なぜか「俺、月曜日すかん、なんでかちいうと、遊びすぎてボウツとするし、憂鬱やーん。」といっている友人が周りには多いが、僕は違う。大好き。マンデイ大好き。サンデイまでの自分は、どこかだらしなく、アンニュイで、自分に飽き飽きしている。だから、刺激がほしい。ぐさっと一気に自分を刺すような刺激が。二年までは、月曜日には、授業が5つあった。きつくなかったし、飽き足りなかった。皆、「たいへんやね。」と異口同音に同情(?)するけど、逆に、自分は言われるのが嬉しかったし、そう言われることを誇りに思ってた。内心、「君達とはちよつと違うのさ。」という優越感と取ることができるようなものさえ持っていたのである。これを読んだ人達は、自分を疑いますか? いや、やっぱりそういう奴だったんだなと思うんじゃないかなたぶん。毎週、毎週、毎週月曜日、毎週月曜日が来れば来るほど、ますます僕は、変になっていったのではないだろうか。いや、変じやない。自分は輝いていたんだきつと。自分は、一週間は、はかないもの、あつというまに、泡がばこつとでてばちつと音をたて失せてしまうものだと思つてたんだ。毎日を大切にしておごすのつていいよねなんて口に出して言わないでくれ。それができる人はいない。それつて無理だし。けれど、一週間というものをみんなが一人一人うまくとらえてくれたらなあ。一週間つて逃げ足速いし、あつというまに卒業むかえたら嫌でしょ? 互いに彼には警戒しましょう。 終

一週間

一年 住吉 弘子

「一週間」という題で原稿依頼があったわけだが、一言、ガソリン。何も浮かばず、正直いって、新款コンパなどの感想のほうを書きや

すそうに感じたが、私にはコンパの時のしつかりした記憶がないだろうという先輩方のやさしい心遣いだと思つて、この題で頑張つてみようと思つた。

四月に入學してから既に三カ月が過ぎた。一日の、一コマの授業よりも何よりも最近痛切に感じるのは、一週間というものがこんなに早く過ぎてゆくものかということである。一週間、毎日毎日、同じ時間割りで、同じ先生を目の前に同じ科目を受け、書道をして、一週間が同じサイクルで過ぎていくように思えるが、友達・書道の仲間を通じてもそうだが、やっぱり何か違ったものを手にしているはずなのだ。というより一週間を振り返つた時、何かを手に入れているかと思つている。

今年私は20歳です。人生の中で、一番思い出の年になると思つた。まずこの一年(一週間のあつまりとして関連させていたたくとして、・・)楽しい事ばかりでなく、きつとつらい時もあるでしょう。でも何事にも後悔だけは絶対にしたくはないと思つている。いい思い出をつくるために、今年も勉学にも? 恋にも? そして書道部に入つて知り合う事ができた人たちと一緒に学び・遊びすべての面において最高の年にしたいと思つていきます。

一週間

三年 高良 俊彦

「一週間」、この長いようで短い期間をテーマに与えられた。はたして「一週間」とはなんなんだろうか。日ごろ何も考えずに日曜から土曜を「一週間」としている。人生の中に於いては、ほんの一部である。しかし、それぞれにとつて思い出深く大切な時もある。まず思い出されるのが「勧誘週間」である。右も左も分らない新入生が希望を胸に勧誘を受ける今の自分がこうしてこの原稿を書いているのもあの時の一週間があつたからである。

次に思い出されるのが、初めての展示会。学術文化発表週間。である。入部して一カ月ぐらいで強化練習が始まり、今までは違う雰囲気での練習が行われた。考えてみれば、あれ以来、大学の書道に對する考え方も変わったと思う。展示会では、自分の作品が様々な

人に見られこれからの大きな励みにもなった。また、赤木先生という人を本当に知れてきたのもこのころだと思う。

最後に心残るのは、役員時代に過ごしてきた二年間である。役員だからという理由ではないが、一週間の内、一日も部屋に顔を出さないことはほとんどなかったと思う。役員をやっている時の一週間はあつという間に過ぎてしまう。しかし、一日一日はものすごく充実しているものだと感じた。自分自身役員というものを楽しみながらやって来た。まず自分自身が、楽しみ方を知らないという人に楽しさを伝える事は出来ない。そう今でも思っている。他にもたくさん心に残るような一週間がたくさんある。

人それぞれに思い出になるような一週間がある。所詮、「一日」「一週間」「一カ月」「一年」が、一生の中でほんのわずかな時でもその時々をすばらしいものに出来るよう頑張っていくきたい。みなさんも、「一週間」という時の一部を、振り返ってみてはいかがですか。

#### 「一年間を振り返って」

我々 第三十三代役員は、書技の向上・親睦融和・書道文化の普及といった目的のもと、これまで培われてきた伝統を見つめ直し、全ての活動に積極的・意欲的に取り組んで一年間の行事を運営して参りました。

今回は、男子七名で役員を行いました。この中の三名は、昨年も役員をやっていた者で、当初は多くの意見のくい違いなどあり多くの衝突がありました。次第にそういうのもかき消されていき、役員七名また部員全員で一つの行事に向かって、成功した時の喜びなどを数多く味わうことができたのではないかと考えます。

この一年間で、部員又この役員七名は、様々な経験をしたと思います。時には、喜び、怒り、哀しみ、楽しんでそれぞれが成長したのではないかと思います。これらの経験を、我々第三十三代役員は、残された時間を次代に引継ぎ、後輩の指導、また、自分たちを飛躍させ、部を発展させるため努力していく所存であります。

最後になりましたが、一年間、様々な方々の暖かい御支援、並びに御指導、御鞭撻を頂き誠に有り難うございました。

（規約）

第一章 名称及び目的

第一条 本部は福岡大学学術文化部会書道部と称し、本学学生による書道愛好者の団体である。

第二条 本部は部員相互の親睦融和をはかり、人間形成を目指すと共に書道文化の普及、書技の向上を目的とする。

第三条 本部は前条目的を達成するために次の事業を行なう。

- 一、書道に関する事業
- 一、書道に関する調査並びに機関誌などの刊行
- 一、関係団体との親睦ならびに連絡提携
- 一、各種展示会出品
- 一、その他前条目的達成のため必要と認められた事業

第二章 組織

第四条 本部は講師及び部長を各一置く。

第五条 本部は幹事、副幹事、会計、企画、庶務、渉外、その他必要とする役職を置き、本部を代表する。

第六条 本部は次の機関を置く。

- 一、役員会
- 一、部員総会
- 一、OB会、但しOB会規約は別に定める。

第三章 役員会

第七条 役員会とは、部の円滑なる運営を期するための機関である。

第八条

本会は原則として、第五条に基づく役員によって構成される。但し、第五条に基づく役員以外であっても幹事が認められた場合には、本会に出席することが出来るが議決権はないものとする。

第九条 本会は幹事によって招集され代表される。

第十条 本会は毎月一回開くことを原則とする。

第十一条 本会の議決は部員総会の決定を妨げるものではない。

第四章 部員総会

第十二条 本会は本部の最高議決機関である。

第十三条 本会は本部の部員によりこれを構成する。

第十四条 本会は必要に応じこれを開き、幹事がこれを兼務する。

第十五条 本会の議長は原則として、幹事がこれを兼任する。

第十六条 一、本会には部員の過半数をもって成立する。

一、本会会の議決は出席者の過半数の賛成を必要とし、可否同数の場合、幹事がこれを決定する。但し、出席者の過半数の賛成で重要事項とし、その決定には出席者の三分の二以上の賛成を必要とする。

第十七条 本会不成立の際、出席者の三分の二以上の賛成をもって仮議決することができる。但し、

- 一、仮議決については事後部員総会において過半数の承認を必要とする。
- 一、重要事項は仮議決することはできない。

第五章 役員

第十八条 役員構成は第五条に同じ。

第十九条 第三条に基づき、外部関係諸団体へ役員を派遣することが出来る。

第二十条 幹事は本部を代表し、副幹事は幹事を補佐し、幹事に支障ある時はその職務を代行する。

第二十一条 本会の役員改選は選挙制にし、これを重要事項と認め部員の無記名投票による選挙を行なう。

但し、委任状は認めるが、委任の方法は年度によって異なっても良いものとする。

第二十二条 本会の役員の任期は四月一日より翌年三月三十一日までとする。但し、役員改選後、翌年三月三十一日までは代行期間とし、その責任は新旧役員の連帯責任とする。尚、欠員が生じた場合これを補充する。

第二十三条 役員改選は原則として十月に行なう。

第六章 役員職務

第二十四条 役員職務は次の通りである。

- 一、幹事は部務を処理し、部を統括する。又、部の代表責任者であり、その責任を学術文化部会と部全体に負う。
- 一、副幹事は幹事を補佐し、幹事に支障ある時はその任務を代行する。

- 一、会計は部費徴収並びに部費予算に關する収支の記録決算書を作成。
- 一、企画は第一章第二条に定められた本部の目的にそつて諸活動を企画する。
- 一、庶務は本部の活動に必要な諸事務を行ない、資料の収集保管をなし、機関誌の発行を行なう。但し、機関誌の発行は年一回とする。
- 一、第五章第十九条に基づく役員は、本部關係諸団体との親睦融和を図り部の向上を目指す。

## 第七章 会計

第二十五条 本部の会計年度は四月一日より翌年三月三十一日までとする。

第二十六条 本部の部費及びその他の所定納入金については、前年度末に部会において決定しなければならぬ。

第二十七条 会計報告は会計が行なう。又、部員の要求に応じて会計簿を公開し、年一回決算報告を作成し、これを報告する。

## 第八章 部員の権利義務

第二十八条 本部の部員は次の権利を有する。

- 一、本部のあらゆる活動に参加し、人間形成の場として利用すること。
- 一、本部の部員総会に出席し、その議決に参加すること。
- 一、本部における選挙権、被選挙権を有する。
- 一、本部の備品及び図書を利用すること。

第二十九条 本部の部員は次の義務を負う。

- 一、部員は部員総会に出席すること。但し、やむなく欠席する者は事前に欠席届を幹事に提出しなければならぬ。
- 一、部員は部費その他の所定納入金を定期に納入すること。
- 一、本部の規約に従うこと。

## 第九章 入部、退部

第三十条 本部の入部は年度始め募集することとを原則とし、学文会登録及び入部金納入をもって部員とする。本部の退部は書面をもって幹事に願ひ出て、役員会の承認を得、部員に通達する。但し、退部を希望する者は、その在籍期間までの所定の納入金を完納すること。

## 第十章 罰則

第三十二条 書道を研究する熱意なく本部の名誉を汚したる者、部活動を理由なくして一ヵ月以上怠つた者、又、部の秩序を乱す者は部より除名する。但し、欠席届出者についてはこの限りではない。

## 第十一章 規約改正

第三十三条 本部規約改正の発議は部員総会において部員の四分の一の同意により総会の議決を経て行なわれる。尚、改正においては、本部員の三分の二以上の出席を必要としその出席者の三分の二以上の賛成を必要とする。

## 第十二章 附則

附一、本規約は、昭和三十五年より実施、昭和四十五年四月一日改正。

福岡大学書心会  
〔規約〕

第一章 総則

第一条 本会は福岡大学書道部書心会と称する。

第二条 本会は事務局（本部）を福岡大学書道部内に置く。

第三条 本会は支部を置くことができる。

第二章 目的及び事業

第四条 本会は会員相互の親睦を図り、書道文化の普及、向上に努めると共に福岡大学書道部の後援を行ない、もって書道に貢献する事を目的とする。

第五条 本会は前条目的達成の為次の事業を行なう。

- 一、書道の振興に関する事業
- 一、書道に関する研究物、機関誌等の刊行
- 一、関係諸団体との親睦及び連絡提携
- 一、各種展示会出品
- 一、その他前条目的達成の為必要と認めたる事業

第三章 組織

第六条 本会正会員は福岡大学書道部員として登録をなし卒業をした者をもつて構成する。但し強制するものではない。

第四章 役員

第七条 本会に総会、評議委員会、および事務局を置く。

第八条 本会は次の各号の役員を置く。

- 一、会長（一名）
- 一、副会長（若干名）
- 一、評議委員長（一名）
- 一、副評議委員長（三名）
- 一、評議委員（原則として各代一名とする）
- 一、事務局次長（一名）
- 一、事務局委員（若干名）
- 一、会計監査委員（一名）

第五章 役員の仕事

第九条 本会の役員は次の職務を行なう。

- 一、会長は本会を統括し、且つこれを代表する。
- 一、副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時は、その職務を代行する。
- 一、評議委員長は、評議委員会を統括し、かつこれを代表する。
- 一、副評議委員長は、評議委員長を補佐し、評議委員長に事故ある時はその職務を代行する。
- 一、評議委員は本会の運営、重要事項の審議および決議にあたる。
- 一、事務局次長は、事務局を統括し、且つこれを代表する。
- 一、事務局次長は、事務局次長を補佐し、

第六章 総会

第十条 総会は本会の最高決議機関である。

第十一条 書心会総会は会員をもって構成する。

第十二条

第十二条 書心会総会は会員をもって構成する。

第十三条 本会総会は次の各号の場合、書心会会長がこれを招集する。

第十四条

第十四条 一、会長が特に必要と認めたる場合

第十五条 一、評議委員会が必要と認めたる場合

第十六条 一、本会総会は出席会員をもって成立する。

第十七条 一、本会決議は出席会員の過半数を必要とし、同数の場合は議長がこれを決定する。

第十八条

第十八条 本会総会議長は書心会会長がこれにあたる。

第十九条 本会総会議長は書心会会長がこれにあたる。

第二十条 本会総会議長は書心会会長がこれにあたる。

第二十一条

第二十一条 事務局長に事故ある時は、その職務を代行する。

第二十二条 事務局員は、本会の企画、立案にあたる。

第二十三条 会計監査委員は、本会の会計監査にあたる。

第二十四条 役員は任期は二年間とし、定例総会において選考するものとする。

第二十五条 事務局次長は、事務局次長を補佐し、

第二十六条 事務局次長は、事務局次長を補佐し、

第二十七条 事務局次長は、事務局次長を補佐し、

第二十八条 事務局次長は、事務局次長を補佐し、

第二十九条 事務局次長は、事務局次長を補佐し、

第三十条 事務局次長は、事務局次長を補佐し、

第三十一条 事務局次長は、事務局次長を補佐し、

第三十二条 事務局次長は、事務局次長を補佐し、

第三十三条 事務局次長は、事務局次長を補佐し、

第三十四条 事務局次長は、事務局次長を補佐し、

第三十五条 事務局次長は、事務局次長を補佐し、

第十九条 構成する。  
評議委員会は次の各号の場合、  
評議委員長がこれを招集する。

一、会長が必要と認めた場合  
一、評議委員長が必要と認めた場合  
第二十條 評議委員会の成立、並びに議決  
は書心会総会に準ずる。

第二十一條 評議委員長は評議委員長  
がこれにあたる。

### 第八章 事務局、会計

第二十二條 本会の執行機関として、本  
事務局を置く。

第二十三條 事務局内に事務室を置き、書  
道部役員より、事務室長を選  
任する。

第二十四條 本会の会計年度は毎年一月一  
日より始まり、十二月三十  
日に終わる。

第二十五條 本会会費は総会において決  
定する。

第二十六條 会計は監査を受け、総会にお  
いてその年度の会計報告を行  
なう。

第二十七條 会員は本会運営費用として毎  
年三月三十一日までに会費納  
入の義務を負う。

### 第九章 入会及び退会

第二十八條 入会については、第十七條に  
該当するもので且つ、本人の  
申し出によるものとする。

第二十九條 本会をやむをえぬ事情の為、  
退会する場合は書面をもって  
すみやかに申し出ること。

第三十條 本会を退会し、再入会の申し出  
があつた場合、評議委員会の承  
認を得たものについて入会を認  
めることがある。

第三十一條 本会で本会の名誉を毀損し、  
また会員としての体面を汚し、  
もしくは不都合な行為があつ  
た場合、総会の決議により退  
会を命ずる。

第三十二條 二年間会費を滞納したものに  
おいては退会を命ずる。

### 第十章 規約改正

第三十三條 本会規約の改正は評議委員会  
の審議を経て総会出席者の三  
分の二以上の賛成を得なけれ  
ばならない

### 第十一章 附則

第三十四條 本規約は、昭和五十九年一月  
十六日から執行する。

♪カラオケルーム



ゴルフ



ホブリング



バッティングセンター



文花サークル



アイススケート

# 七段ファミリープラザ

〒814-04 福岡市城南区七段8丁目4番8号(福大横) TEL(861)5555

延徳センター 梅光園バッティングセンター TEL (731)2791

うまい！！  
安い！！  
居酒屋

## あか鬼

コンパ受付中(50名)……  
毎週木曜日飲みのも半額  
夕方6時より深夜3時まで  
城南区友丘1丁目1-2 友泉亭公園前 TEL 864-7888

美術表装・ギャラリー

# 晩香堂

- 晩香堂は100年以上の伝統をもつ美術表装の専門店です
  - お気に入りの書画に合う裂をご自分の目で選んでいただけます
  - 営業時間：AM10:00～PM6:30
- 〒810 福岡市中央区大濠1丁目3-5(福岡気象台ヨコ) ☎(092)741-0897 ㊟7リ

トータルインテリアのプロプロフェッショナル GSグループ  
GSクロス GSフロアカバーリング GSガーデン

株式  
会社

# GSタカハシ

福岡市天神2-10-10  
TEL 福岡 741-3231  
781-7170



株式  
会社 NPC商会

TOTAL GIFT STATION……

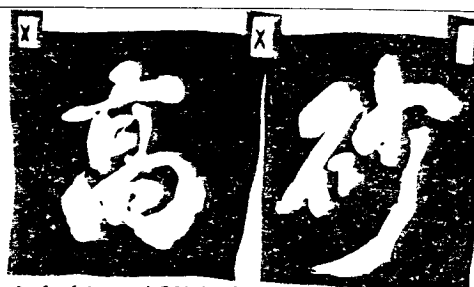
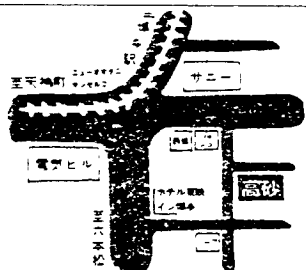
本社： ☎812 福岡市博多区博多駅南1丁目9-11  
電話 092(431)6161(代) FAX 092(411)4212  
熊本営業所： ☎860 熊本市瀬屋2丁目45  
電話 096(355)0095 FAX 096(354)4487



煙草・牛乳・菓子・その他

## 福大前 メインショップ

福岡市城南区片江5丁目45-15  
☎092-861-1577



大小宴会、コンパ、ご商談等にお気軽にご利用下さい。  
☎810 福岡市中央区高砂1丁目4-14 TEL(531)3500・0140

## 大地不動産(株)

不動産のトータルプランナー

福岡市城南区片江5丁目10-14  
福大前バスのりば近く

～お問い合わせ～  
☎092-863-0514



和漢文房舗

# 硯 山

福岡本店：福岡市中央区天神3-5-23

☎092(721)1644

久留米店：久留米市通東町3-16

☎0942(34)3401

下関店：下関市細江町1-3-16

☎0832(23)6386

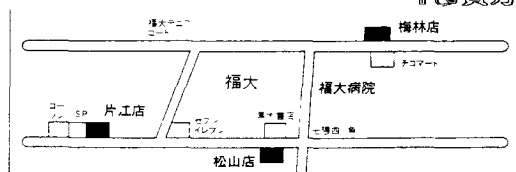
北九州店：北九州市小倉北区浅野2-10-13

☎093(533)2570

# アメリカン梅林店

料理もおいしいよ

『あなたの近くのアメリカン♪』




城南区梅林1丁目13-17

梅林店 (092)865-8003

片江店 (092)863-9930

松山店 (092)873-1007

 **ぼけ八** 本店

福岡市城南区友丘2丁目2-2

TEL 092-801-7763

Party 60名までOK



～焼肉ジンギスカン～

## 大ちゃん

◎焼肉半額

◎飲み放題 生ビール  
耐ハイ  
焼酎  
日本酒

☎ 814-01

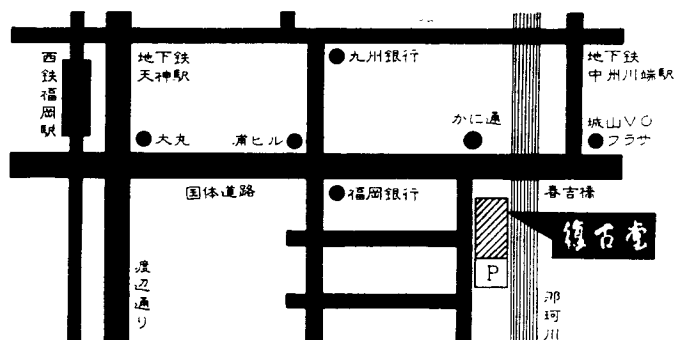
福岡市城南区七隈8-1-28  
梅野ビル1階

TEL 092-863-1429

● アトリエメニュー

書画用筆墨硯紙・香  
色紙・短冊・料紙  
和文具・書籍  
額・表装・貸額  
搬入出引受

赤ちゃん筆、御用命承ります



—— 駐車場完備 ——

大丸デパートより徒歩5分

電話予約・お問い合わせ 092-761-5122(代)

SINCE 1501・室町文亀元年創業



平助筆 復古堂

〒810 福岡市中央区春吉3-3-9 TEL 092-761-5122(代) FAX 092-761-8367

部員名簿

第三十四号『荒鷺』が、何とか出来上がると思っています。

一年間の書道部の活動の集大成として、記録的要素の濃い機関誌にしようと思いつてきました。

部員の皆さん、一年間様々なことあったことだろうと思います。その思い出をふっと懐かしみ、ふっとした時に、この荒鷺を聞いて頂けたら大変嬉しく思います。

最後になりましたが、本号「荒鷺」の発刊にあたりまして、ご協力頂きました関係者各位の方々に部員一同感謝すると共に、厚く御礼申し上げます。

野口 益記

安武 淳

「荒鷺」

第三十四号

福岡大学学術文化部会

機関誌

平成六年二月 発行

発刊責任者 白井 和宏

編集責任者 野口 益記

発刊

福岡大学学術文化部会

書道部

〒八一九一〇一

福岡市城南区七隈八一一九一

電話 八七二一〇四七二

印刷所

㈱いづみプリンティング